

## IV-5 子育て中及び子育て終了世帯の調査結果

### 1. 調査の概要

#### (1) 調査の目的

区内に居住する子育て中の世帯、子育て終了世帯の一般区民に対してアンケートを行うことにより、生活実態、結婚や子育て等に関する意見などを把握し、平成21年度「練馬区次世代育成支援対策行動計画（後期）」を策定するうえでの基礎資料とする。

#### (2) 調査内容

- ①家族及び生活について
- ②子育てについて
- ③子育てに関する情報、相談等について
- ④結婚や子育てについて
- ⑤労働・社会保険等による支援の周知状況
- ⑥地域交流について
- ⑦少子社会に対する考え方について
- ⑧行政サービスへの要望について

#### (3) 調査仕様

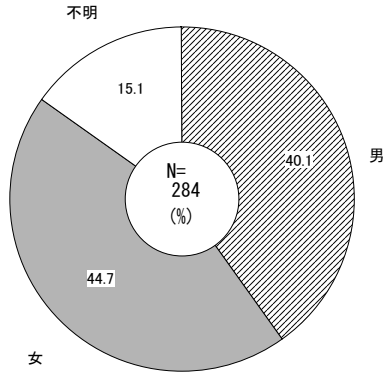
- ①調査地域 区内
- ②調査対象 区内に居住する子育て中世帯（13歳から18歳の末子のいる世帯）及び子育て終了世帯（50歳から65歳の夫婦のみの世帯）
- ③標本数 500件（各250件）
- ④抽出方法 住民基本台帳から調査対象の条件をかけて抽出
- ⑤調査方法 郵送配布、郵送回収
- ⑥調査期間 平成21年2月27日～3月13日

#### (4) 回収数・回収率

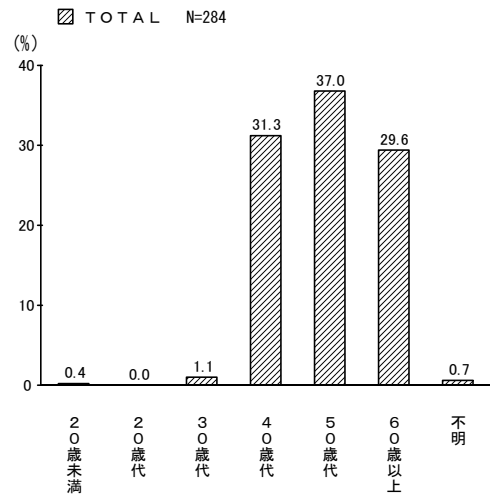
284件 有効回答率=56.8%

## (5) 基本属性

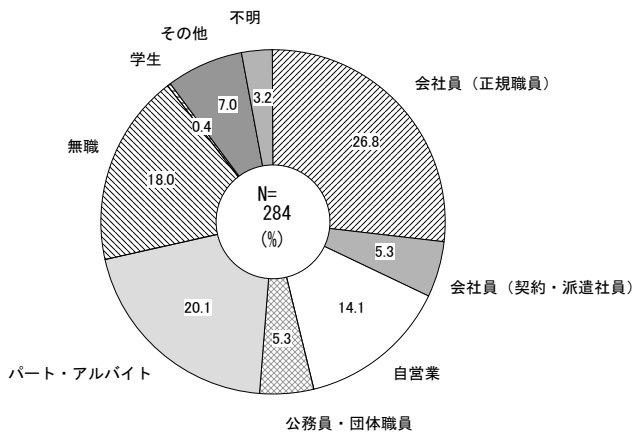
性別



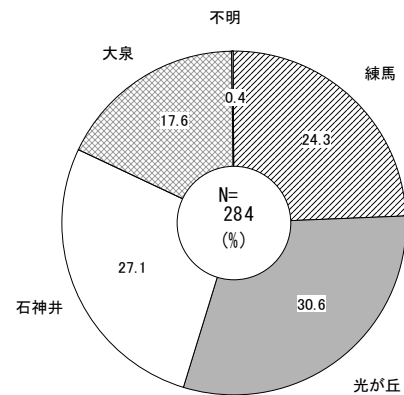
年齢



職業



居住地区



### ◆本報告書における調査結果の見方

- 調査結果の数値は、回答率(%)で表示している。回答率(%)の母数は、その質問項目に該当する回答者の総数であり、その数は全体及びNで示している。
- 回答率(%)については、小数点以下第2位を四捨五入し、少数第1位までを表示している。このため、その合計数値は必ずしも100%とはならない場合がある。
- 回答には、単数回答(○は1つ)と複数回答(○はいくつでも)の2種類がある。複数回答の場合、その回答率(%)の合計は100%を超える場合がある。
- 図表の問のタイトル及び、回答の選択肢は、簡略化して表現している場合がある。正式な問のタイトル及び、回答の選択肢は、調査票を参照されたい。

## 2. 調査結果の概要

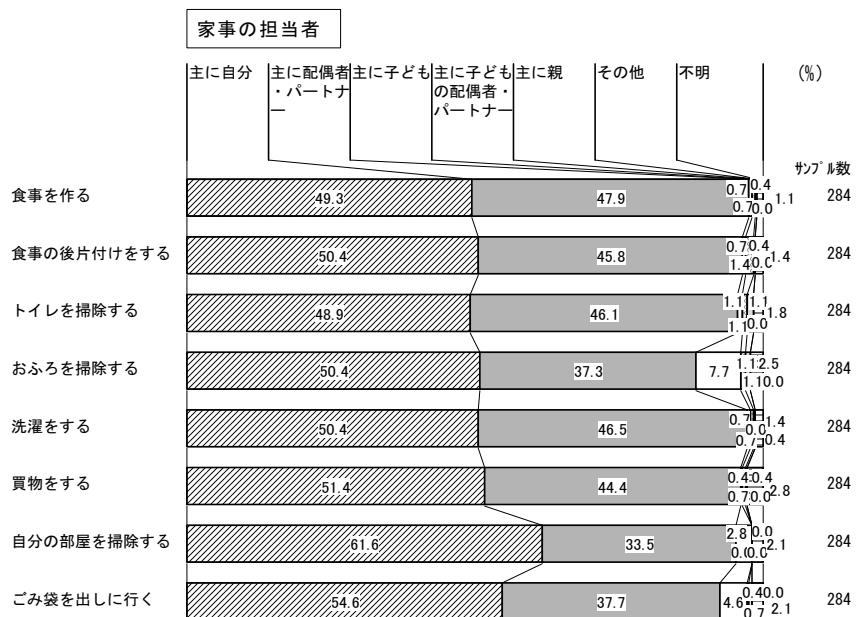
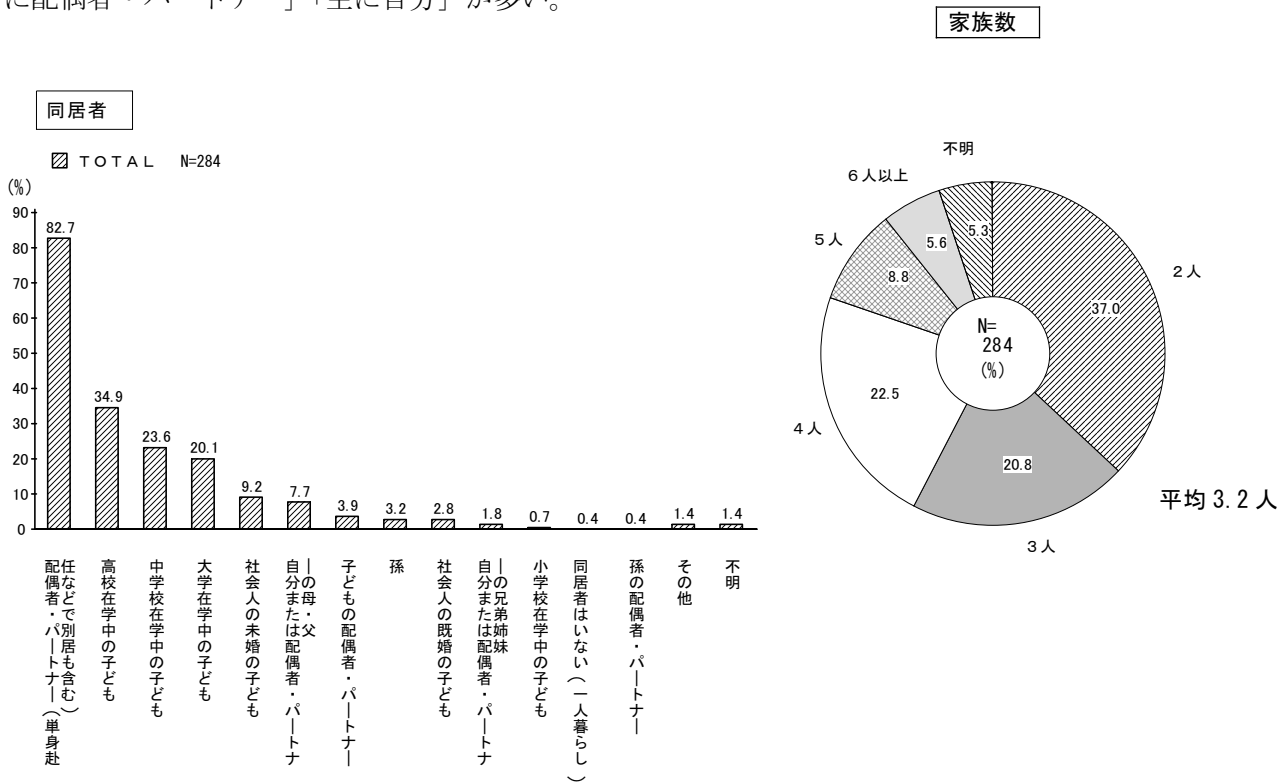
### (1) 家族及び生活について

**問1** 同居されている方はどなたですか。あなたを中心にお答えください。(複数回答)

**問1 (1)** 次のようなことについて、家庭内では誰がしていますか。

家族について聞くにあたり、はじめに同居者について聞いたところ、「配偶者・パートナー(単身赴任などで別居も含む)」が82.7%で最も多く、続いて「高校在学中の子ども」が34.9%、「中学校在学中の子ども」が23.6%となっている(同居家族数:平均3.2人)。

また様々な家事の担当者については、全体的に「主に配偶者・パートナー」「主に自分」が多い。



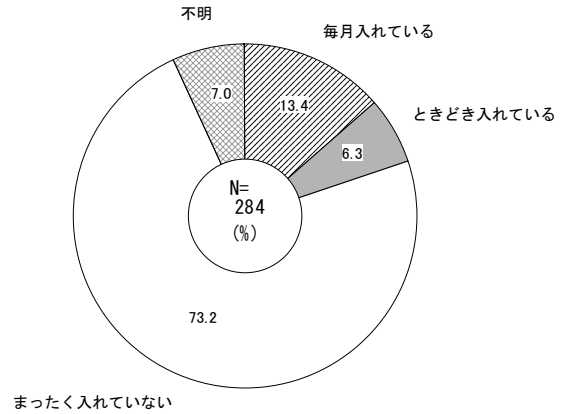
**問2 あなたは、子どもへ生活費（仕送り）を入れていますか。**

子どもへの生活費（仕送り）について見てみると、「まったく入れていない」が73.2%で最も多くなっている。また「毎月入れている」は13.4%、「ときどき入れている」は6.3%となっている。

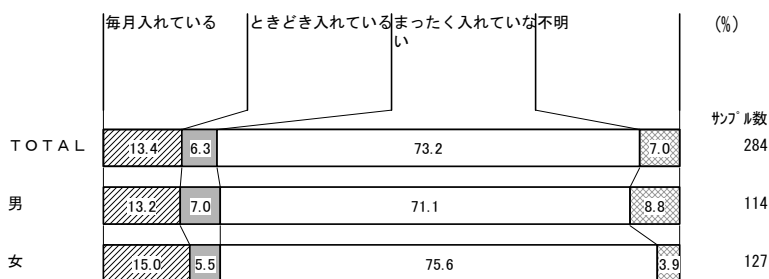
性別で見ると、いずれも「まったく入れていない」が多くなっている。

年齢別に見ると、およそ子どもが高校生前後の年代である「40歳代」では「毎月入れている」がやや多く、「60歳代」になると8割弱が「まったく入れていない」となっている。

子どもへの生活費（仕送り）

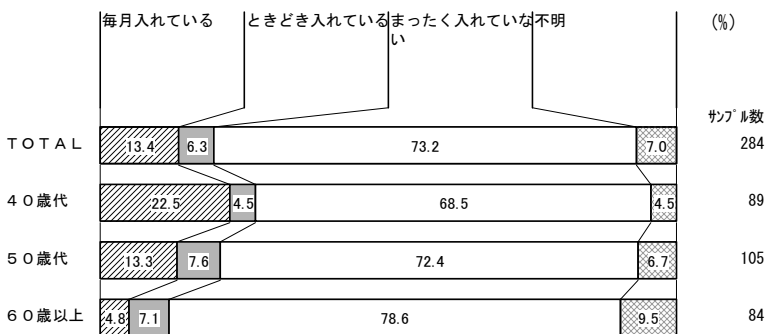


子どもへの生活費（仕送り）（性別）



(注) 表側の不明は除く。

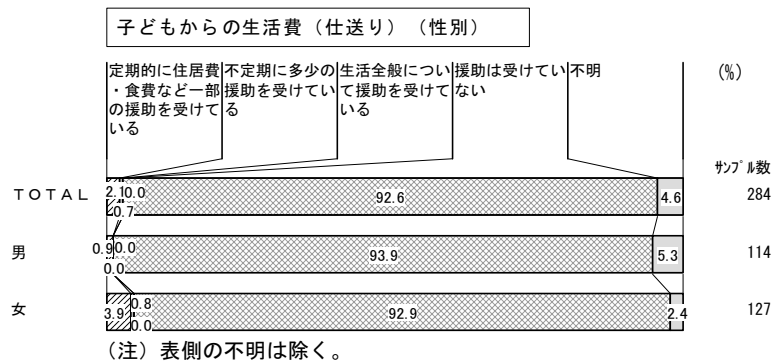
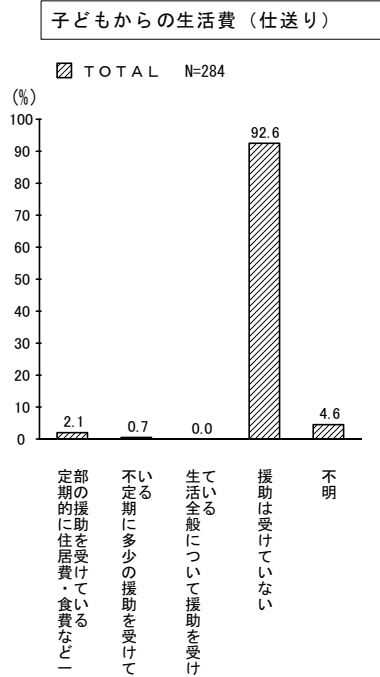
子どもへの生活費（仕送り）（年齢別）



(注) 表側の不明は除く。その他の項目はサンプル数が少ないか無いため除く。

**問3 あなたは、子どもから生活費の援助を受けていますか。**

子どもからの生活費の援助について聞いたところ、「援助は受けていない」が92.6%を占めている。性別で見ると、いずれも「援助は受けていない」が圧倒的に多くなっている。



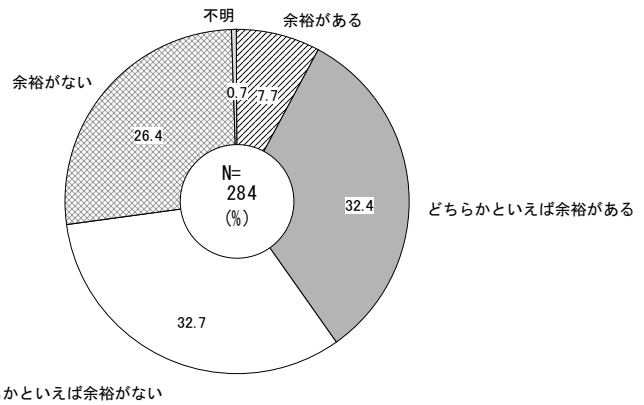
**問4** 今のあなたの生活は、経済的に余裕がありますか。

経済的余裕について聞いたところ、「どちらかといえば余裕がある」「どちらかといえば余裕がない」の2つが32%前後でほぼ均等に分かれており、「余裕がない」も26.4%となっている。

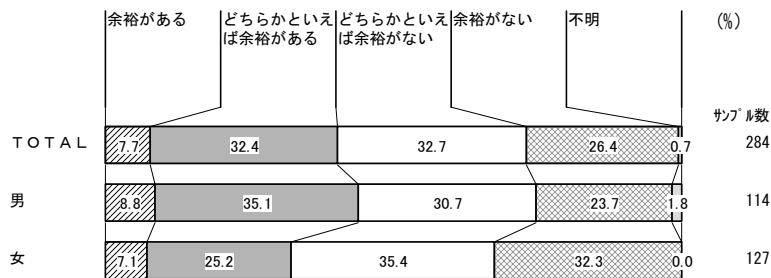
性別で見ると、「余裕がある」「どちらかといえば余裕がある」については男性が多くなっている。

年齢別で見ると、「40歳代」では余裕がないことが分かるが、「60歳代」では余裕がある人の割合が大きくなっている。

経済的余裕

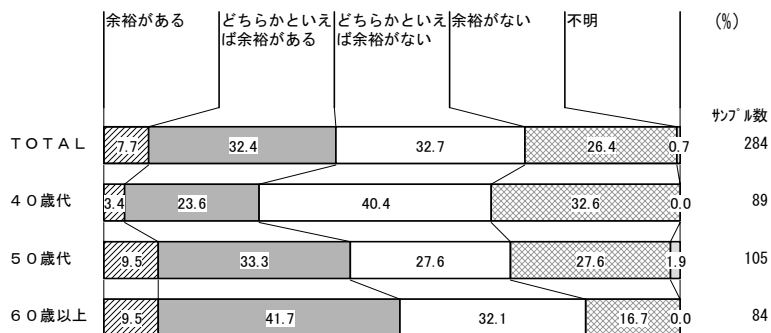


経済的余裕 (性別)



(注) 表側の不明は除く。

経済的余裕 (年齢別)

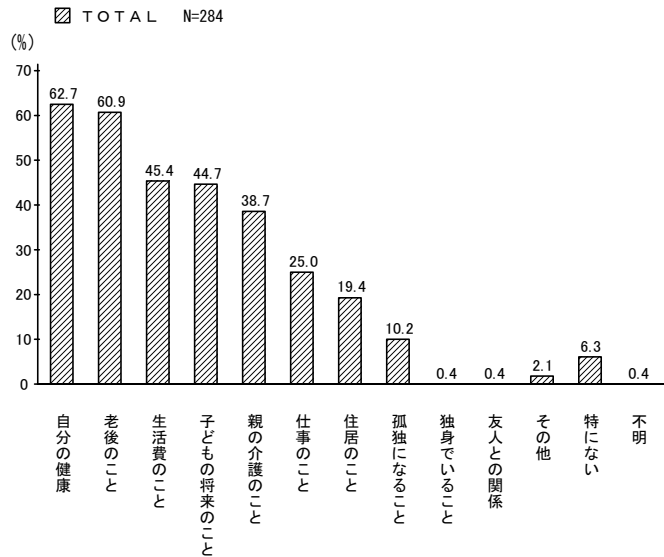


(注) 表側の不明は除く。その他の項目はサンプル数が少ないか無いため除く。

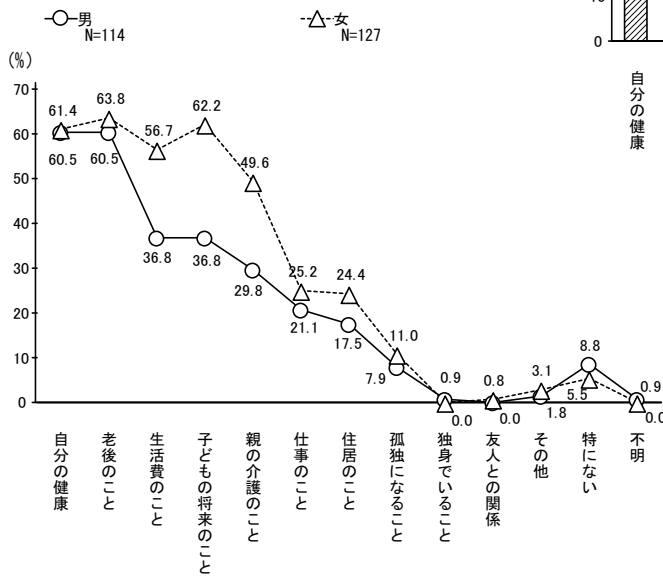
**問5 あなたは、将来への不安にはどんなものがありますか。(複数回答)**

将来への不安について聞いたところ、「自分の健康」が62.7%で最も多く、続いて「老後のこと」が60.9%、「生活費のこと」が45.4%となっている。  
性別で見ると、「生活費のこと」「子どもの将来のこと」や「親の介護のこと」で女性が多くなっている。

将来への不安

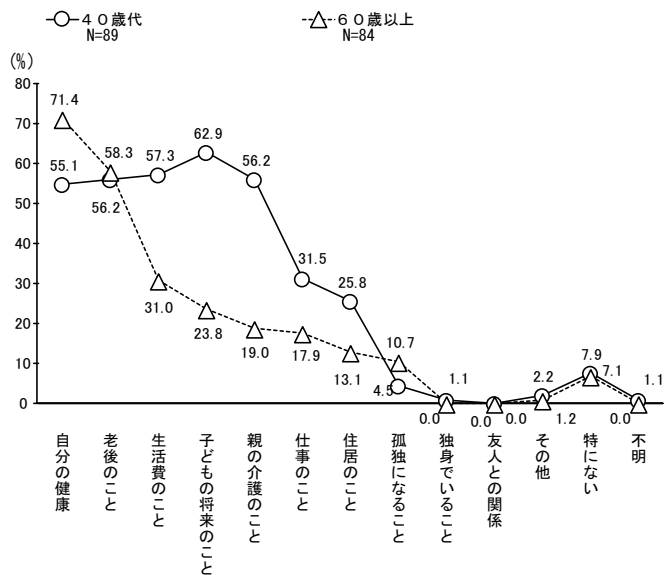


将来への不安 (性別)



およそ中学生、高校生を養育している「40歳代」と、およそ子どもが独立している「60歳代」とで比較すると(以下「年齢比較」)、「40歳代」では「子どもの将来のこと」「生活費のこと」や「親の介護のこと」について不安と感じている割合が多い。

将来への不安 (年齢比較)



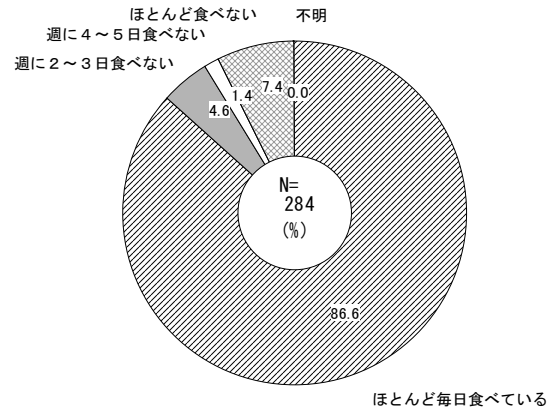
問6 あなたは、朝食をとっていますか。  
 問6 (1) その理由は何ですか。

朝食摂取状況については、「ほとんど毎日食べている」が 86.6%で、「ほとんど食べない」は 7.4%となっている。

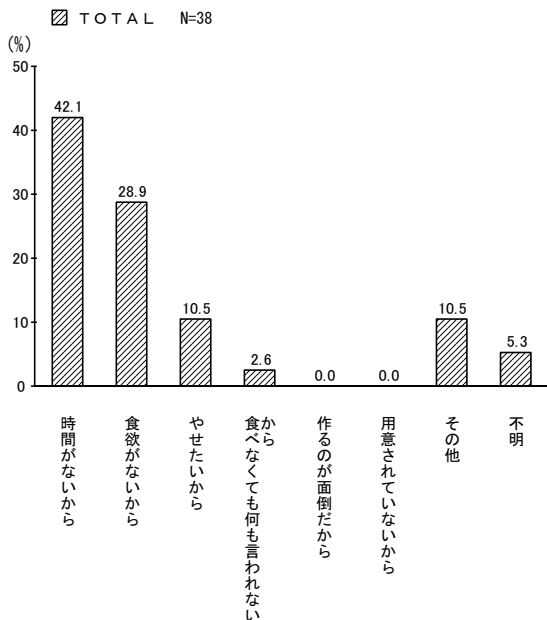
朝食の摂取について「ほとんど毎日食べる」と回答した人以外に、朝食を摂取しない理由について聞いたところ、「時間がないから」が 42.1%となっており、続いて「食欲がないから」が 28.9%となっている。

朝食摂取状況を性別で見ると、男女共に「ほとんど毎日食べる」が多くなっている。

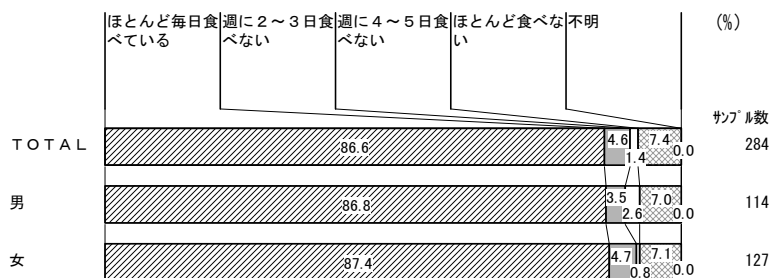
朝食の有無



朝食をとらない理由



朝食の有無 (性別)



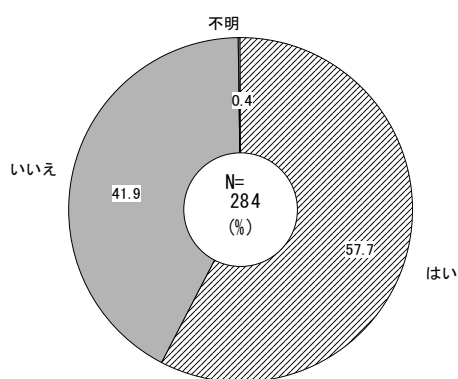
(注) 表側の不明は除く。



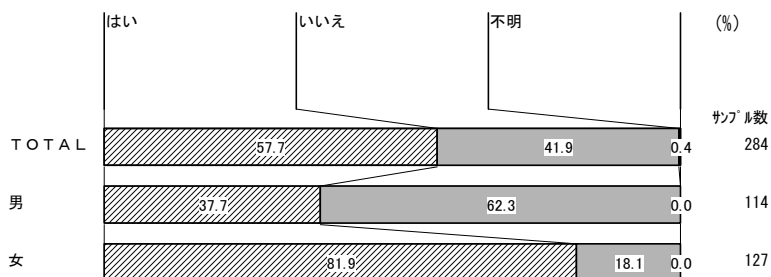
問7 あなたは、間食をしていますか。  
 問7(1) 間食ではどのようなものを食べていますか。(3つまで)

間食の有無について聞いたところ、「はい」が57.7%、「いいえ」が41.9%となっている。  
 性別で見ると、女性は81.9%が間食をしているが、男性の62.3%はしていない。

間食の有無



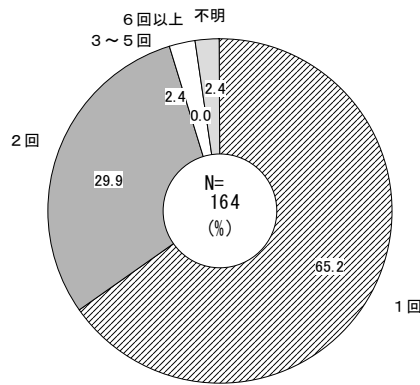
間食の有無 (性別)



(注) 表側の不明は除く。

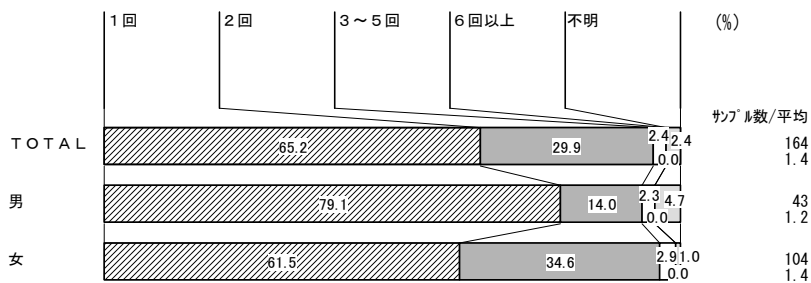
間食の有無で「はい」と回答した人に、1日の回数を聞いたところ平均で1.4回であった。性別で見ると、女性の回数が多いことが分かる（平均1.4回）。

間食の回数(1日)



平均 1.4 回

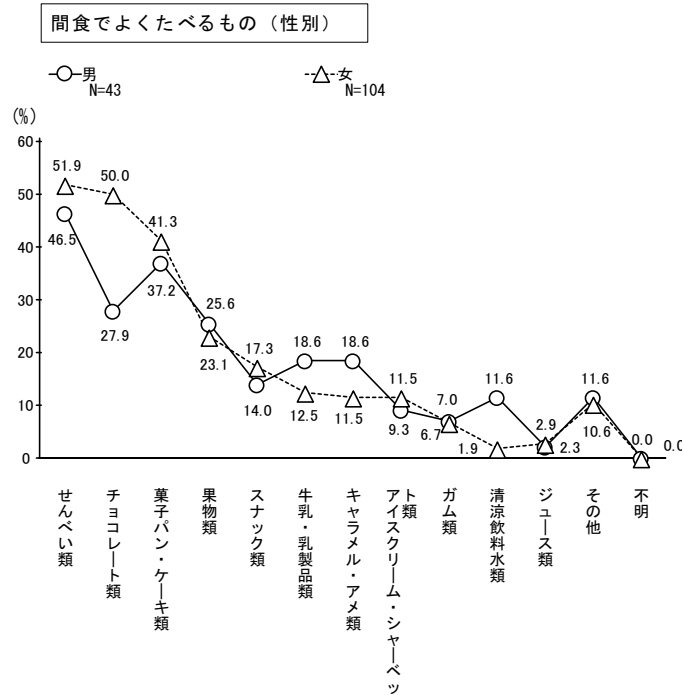
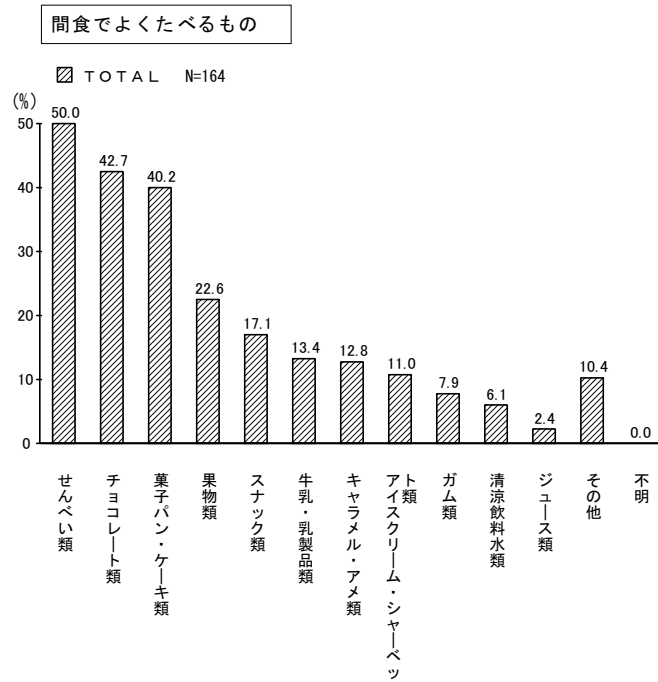
間食の回数 (性別)



(注) 表側の不明は除く。

間食をする人に、間食でよく食べるものについて聞いたところ、「せんべい類」が50.0%で最も多くなっており、続いて「チョコレート類」が42.7%、「菓子パン・ケーキ類」が40.2%などとなっている。

性別で見ると、男女共に「せんべい類」が多くなっているが、女性は「チョコレート類」「菓子パン・ケーキ類」なども同様に多くなっている。



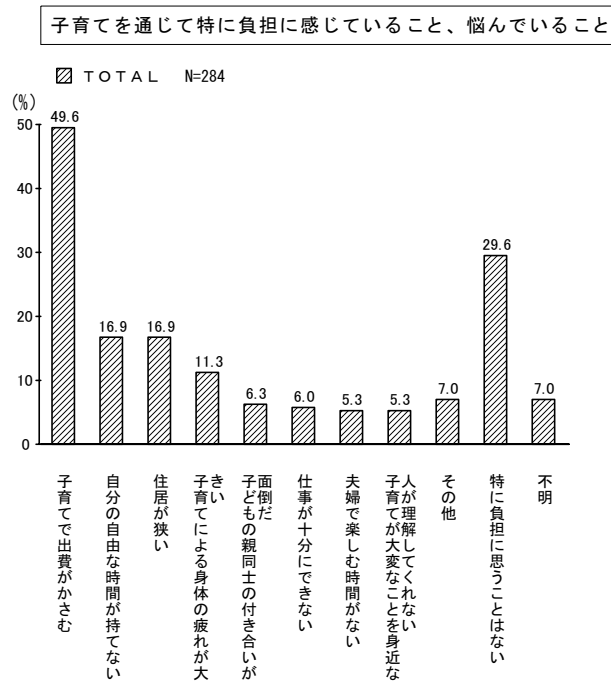
## (2) 子育てについて

**問8** あなたがこれまでの子育てを通じて、特に負担を感じていること、悩んでいることはどのようなことですか。(複数回答)

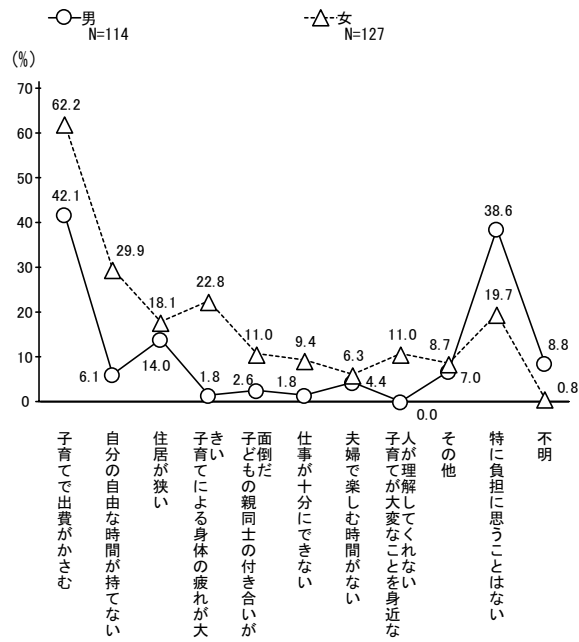
子育てを通じて、特に負担を感じていること、悩んでいることはどのようなことか聞いたところ、「子育てで出費がかさむ」が 49.6%で最も多くなっており、続いて「特に負担に思うことはない」が 29.6%、「自分の自由な時間が持てない」が 16.9%となっている。

性別で見ると、女性の方がより多くの項目を選択している。特に「子育てで出費がかさむ」が顕著となっている。一方、男性については、「子育てで出費がかさむ」の他には「特に負担に思うことはない」が多くなっている。

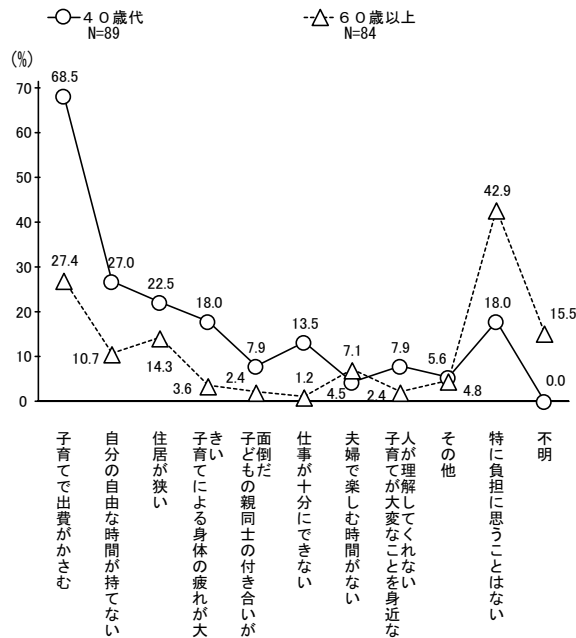
年齢比較で見ると、40歳代では「子育てで出費がかさむ」が顕著となっている。一方、60歳以上については、「特に負担に思うことはない」が多くなっている。



子育てを通じて特に負担に感じていること、悩んでいること（性別）



子育てを通じて特に負担に感じていること、悩んでいること（年齢比較）

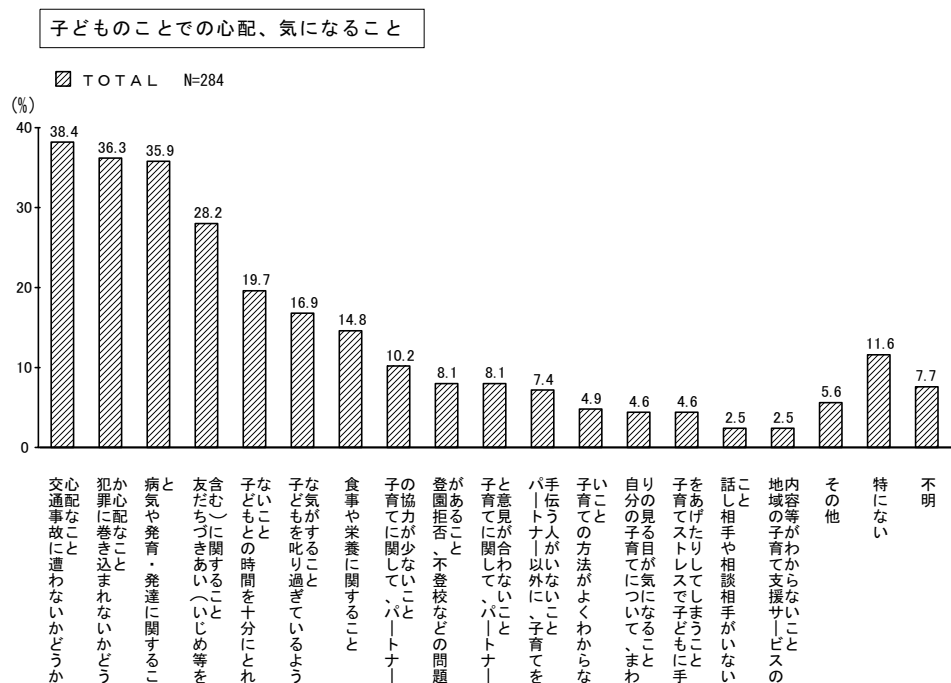


**問9** あなたが、これまでに、子どものことで心配に感じたり、気になったりしたのはどのようなことですか。(複数回答)

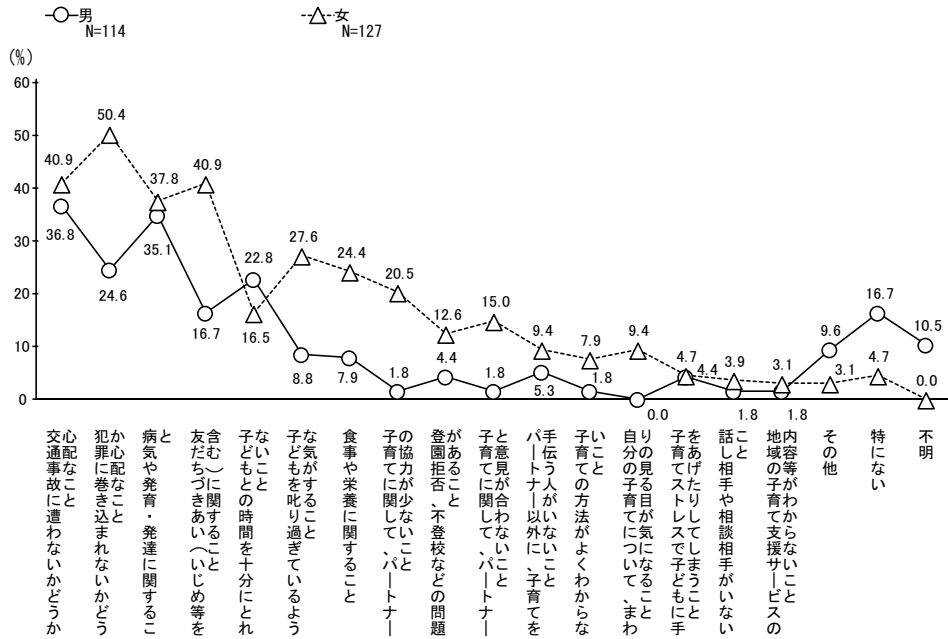
子どものことで心配に感じたり、気になったりしたことについて見てみると、「交通事故に遭わないかどうか心配なこと」が48.4%で最も多く、続いて「犯罪に巻き込まれないかどうか心配なこと」が36.3%、「病気や発育・発達に関すること」が35.9%となっている。

性別で見ると、男女共に「交通事故に遭わないかどうか心配なこと」や「病気や発育・発達に関すること」が多くなっているが、女性については「子どもを叱り過ぎているような気がする」となっている。

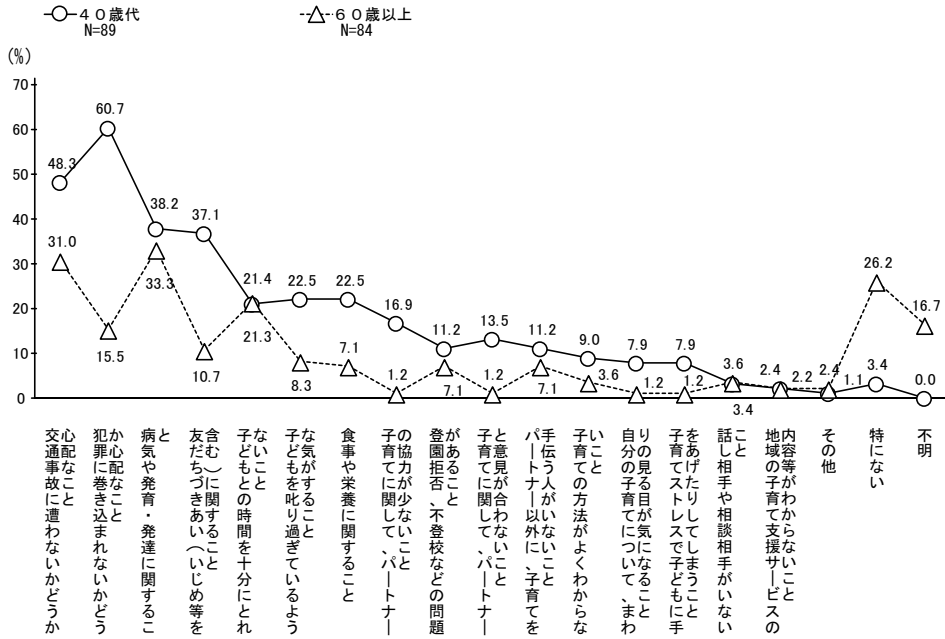
年齢比較で見ると、全体的には40歳代の心配や悩みが多くなっており、特に「犯罪に巻き込まれないかどうか心配なこと」が多い。



子どものことでの心配、気になること（性別）



子どものことでの心配、気になること（年齢比較）

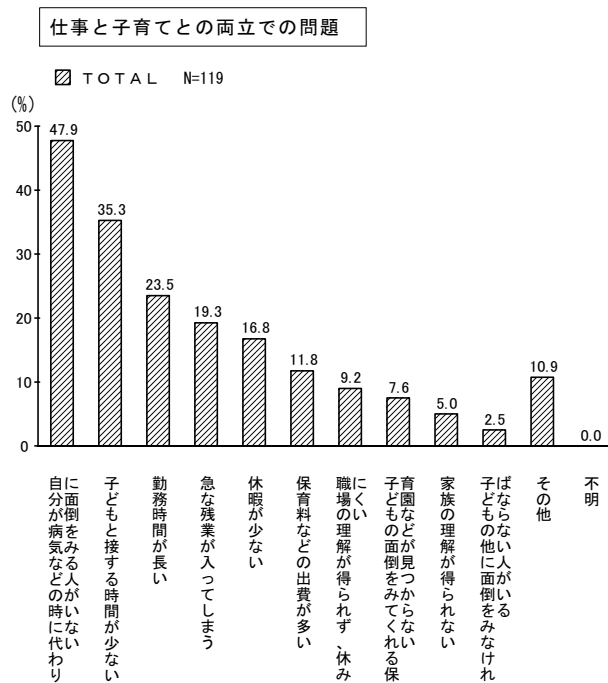


**問10** あなたが仕事と子育てを両立させるうえで、大変だと感じることはどのようなことですか。(2つまで)

働きながら子育てをしていた人に、仕事と子育てとを両立させる上で大変だと感じていることについて聞いたところ、「自分の病気時などに、変わりに面倒をみる人がいない」が47.9%で最も多く、続いて「子どもと接する時間が少ない」が35.3%となっている。

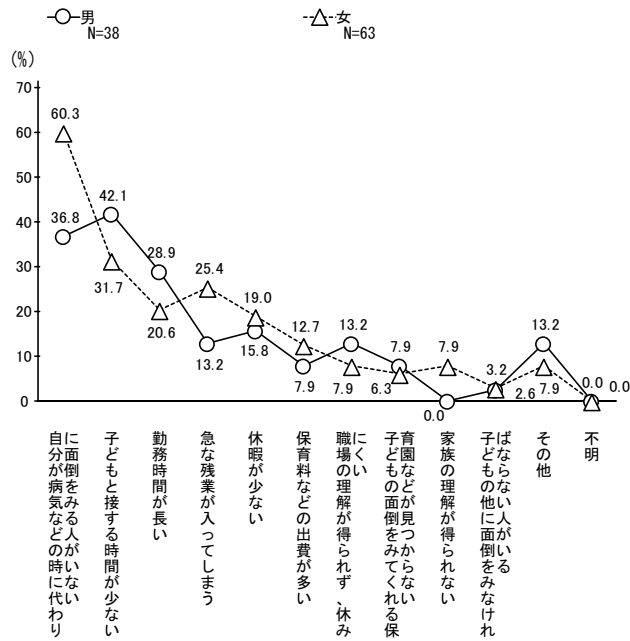
性別で見ると、女性は「自分の病気時などに、変わりに面倒をみる人がいない」が最も多く、男性は「子どもと接する時間が少ない」が最も多くなっている。

年齢比較で見ると、40歳代については「自分の病気時などに、変わりに面倒をみる人がいない」が最も多く、60歳代については「子どもと接する時間が少ない」が最も多くなっている。

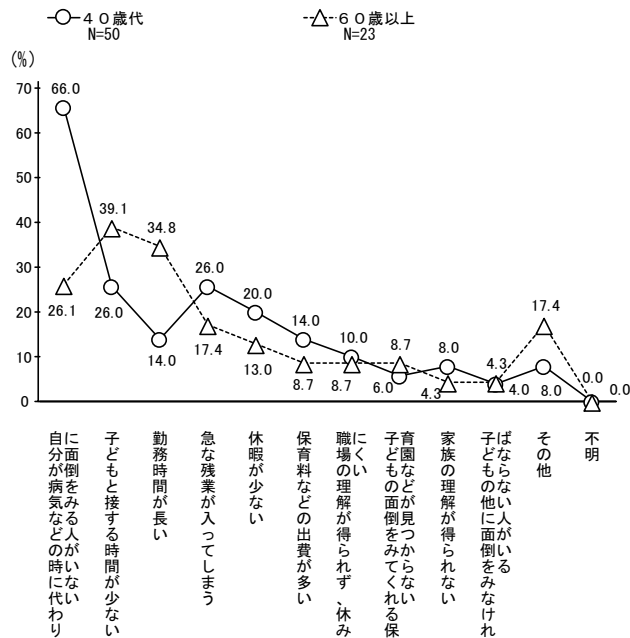




仕事と子育てとの両立での問題（性別）



仕事と子育てとの両立での問題（年齢比較）



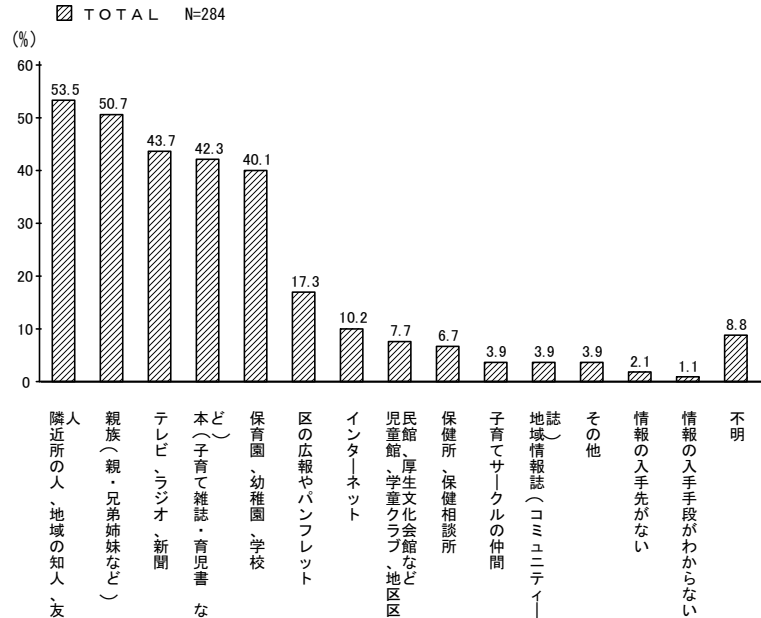
### (3) 子育てに関する情報、相談等について

問 1 1 あなたは子育てに関する情報を、どこから入手されてきましたか。(複数回答)

問 1 2 あなたは身近な地域で、子育てに関する悩みや不安などを相談していたのは誰ですか。(複数回答)

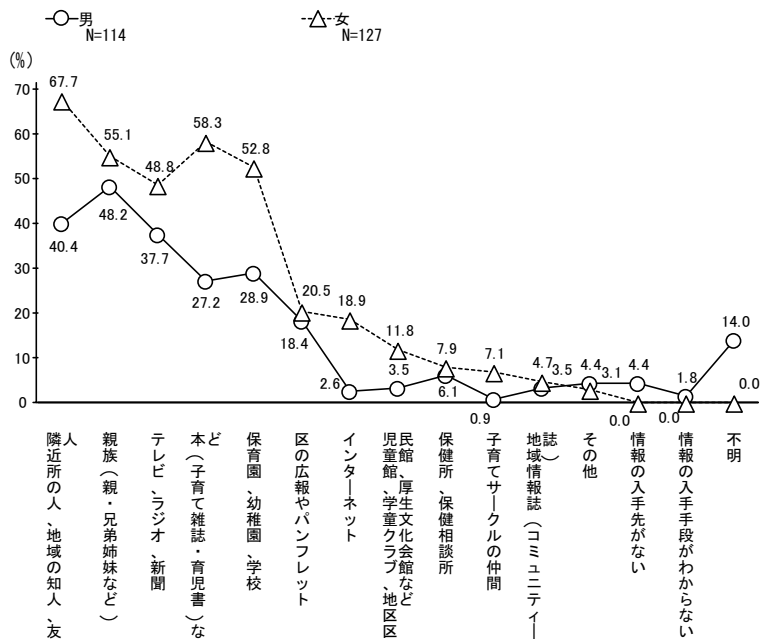
子育てに関する情報の入手先について聞いたところ、「隣近所の人、地域の知人、友人」が53.5%で最も多く、続いて「親族(親・兄弟姉妹など)」が50.7%となっている。

子育てに関する情報入手先

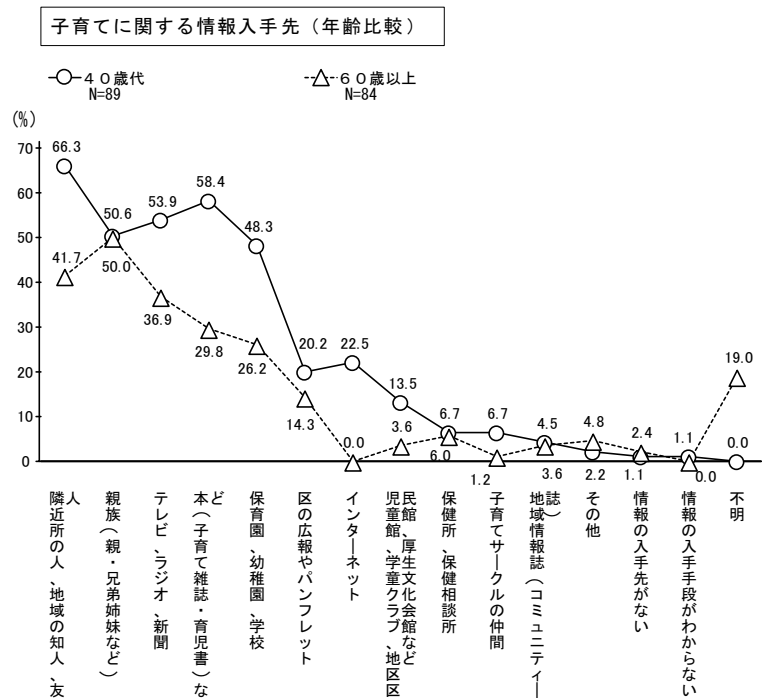


性別で見ると、全体的に女性の方がより多くの項目を選択している。「親族(親・兄弟姉妹など)」については男性の回答もやや多くなっている。

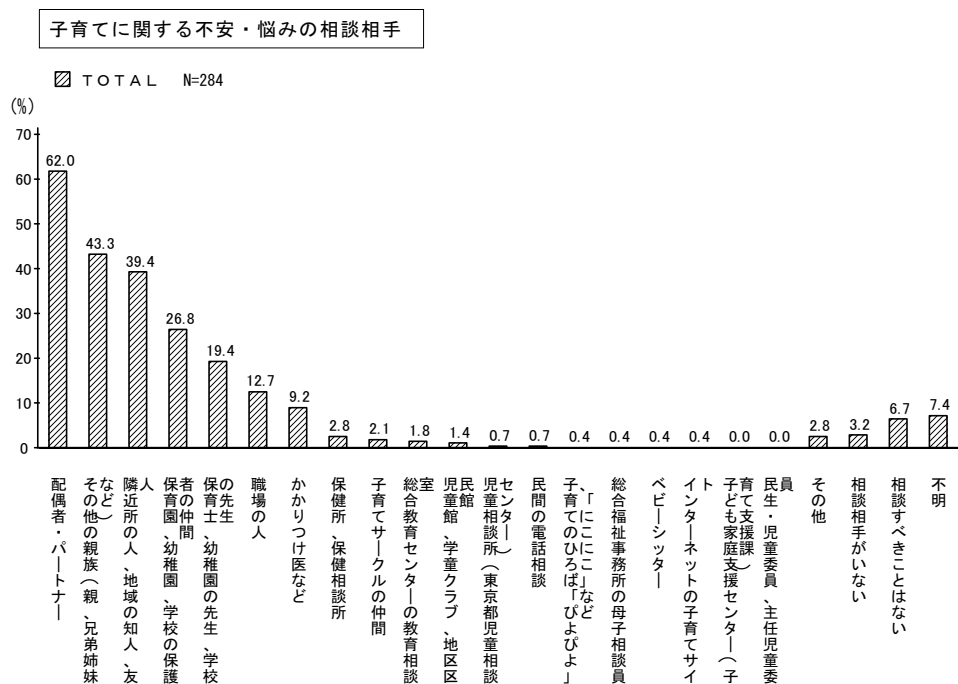
子育てに関する情報入手先(性別)



年齢比較で見ると、全体的に40歳代の方がより多くの項目を選択している。特に「本（子育て雑誌・育児書）など」については大きな開きがある。

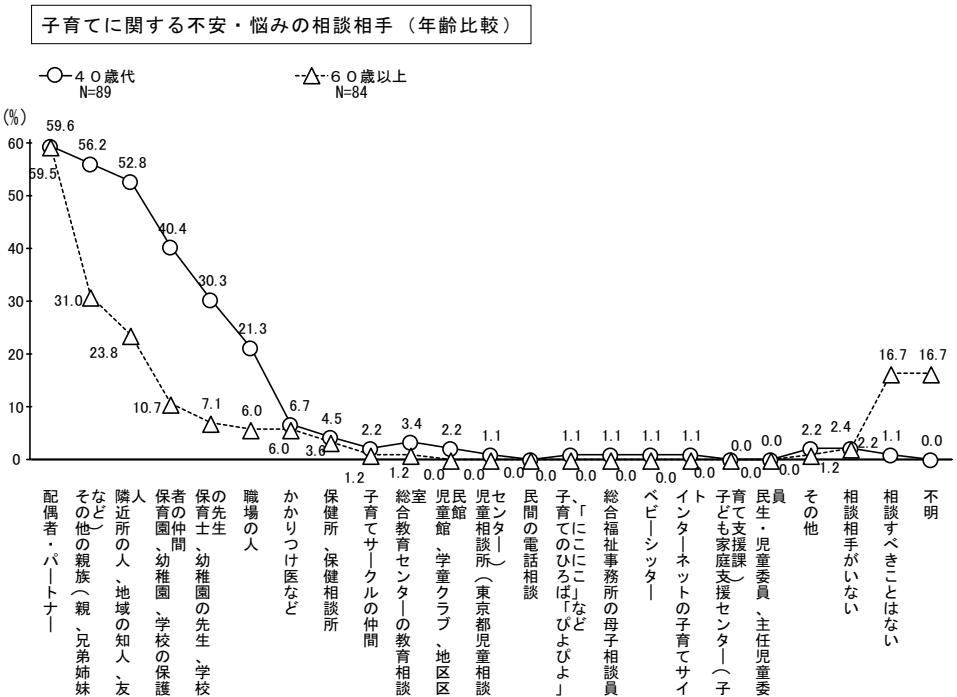
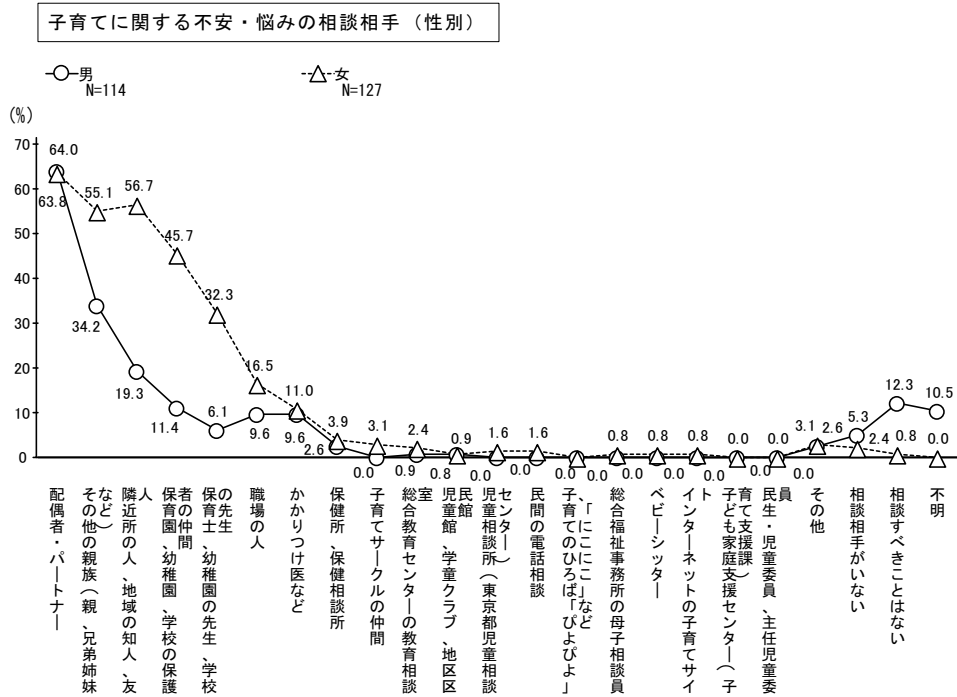


子育てに関する悩みや相談相手については、「配偶者・パートナー」が62.0%で最も多く、続いて「その他の親族（親・兄弟姉妹など）」が43.3%、「隣近所の人、地域の知人、友人」が39.4%となっている。



性別で見ると、女性の方がより多くの項目を選択しており、特に「隣近所の人、地域の知人、友人」については男女差が大きい。

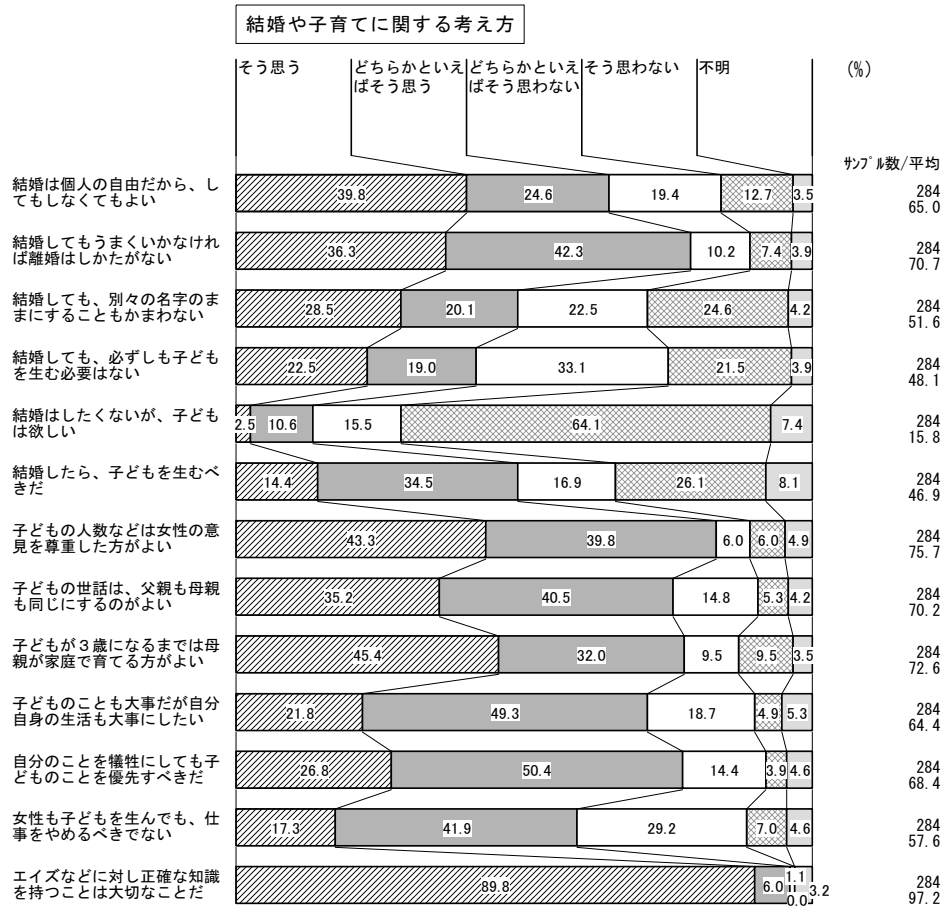
年齢比較で見ると、いずれも「配偶者・パートナー」が最も多く、全体的には40歳代の回答が多くなっており、特に「その他の親族（親、兄弟姉妹など）」「隣近所の人、地域の知人、友人」「保育園、幼稚園、学校の保護者の仲間」についても相談相手として重要な位置を占めていることが分かる。



#### (4) 結婚や子育てについて意識と労働・社会保険等による支援の周知状況

問13 あなたは、結婚や子育てに関する次のような考え方についてどう思いますか。

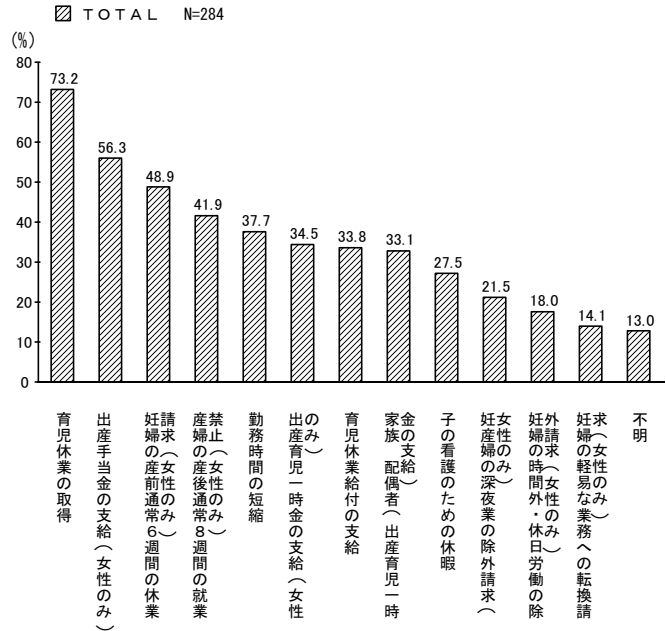
結婚や子ども等についての考え方について、様々な視点から聞いたところ「エイズなどに対し正確な知識を持つことは大切なことだ」「子どもの人数などは情勢の意見などを尊重した方がよい」の「そう思う」、「結婚はしたくないが、子どもは欲しい」の「そうは思わない」の割合がやや大きくなっている。



**問14 あなたは、妊産婦や子育て中の労働者に対して、労働・社会保険等による次のような支援があることを知っていますか。(複数回答)**

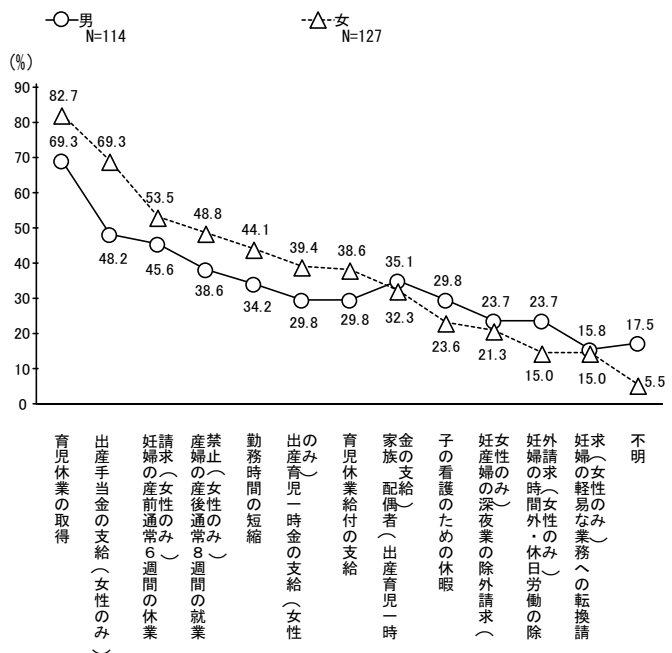
妊産婦や子育て中の労働者に対する制度について知っているものを聞いたところ、「育児休業の取得」が73.2%で最も多く、続いて「出産手当金の支給(女性のみ)」が56.3%となっている。

妊産婦や子育て中の労働者に対する制度の認知



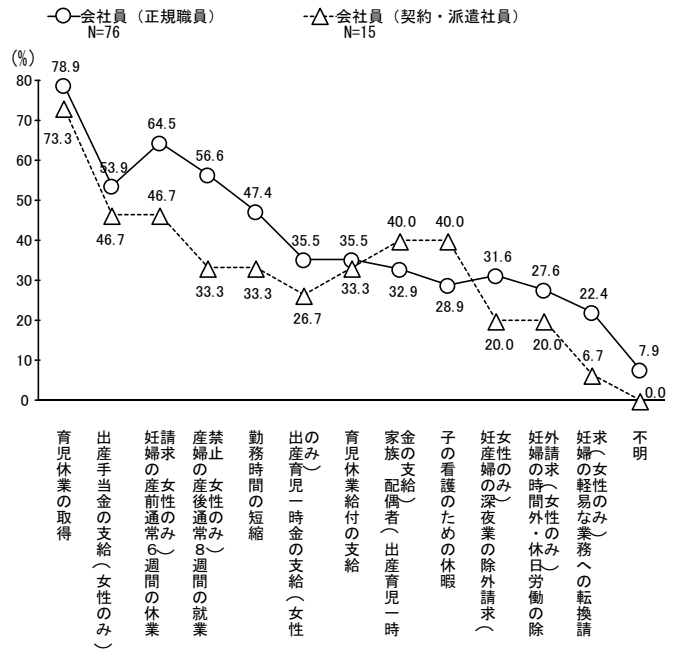
性別で見ると、全体的には女性の方がより多くの項目を選択しており、特に「出産手当金の支給(女性のみ)」や「妊婦の産前通常6週間の休業請求(女性のみ)」などについての認知度が高くなっている。

妊産婦や子育て中の労働者に対する制度の認知



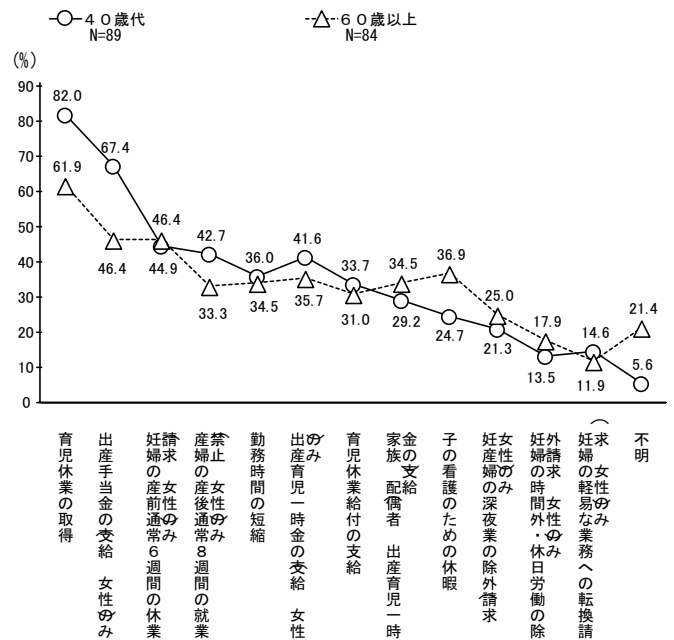
そこで職業による比較を行うと、  
全体的には「会社員（正規職員）」  
の方が認知度が高い。

妊産婦や子育て中の労働者に対する制度の認知（職業比較）



年齢比較を行うと、全体的には「40歳代」の方が認知度が高い。

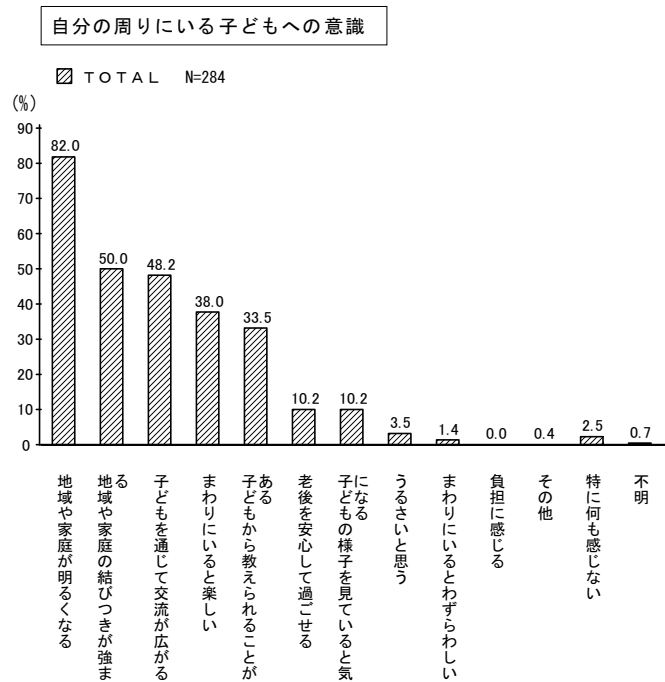
妊産婦や子育て中の労働者に対する制度の認知（年齢比較）



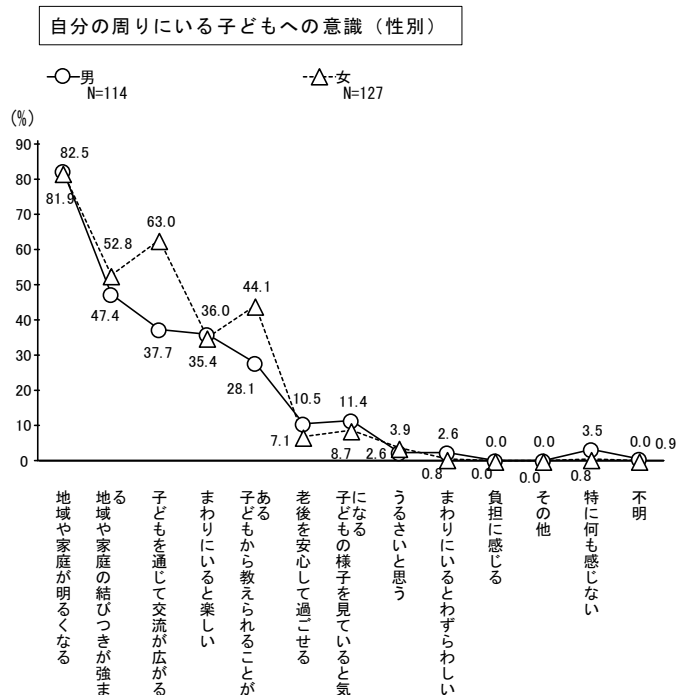
## (5) 地域との交流について

**問15** あなたは、家族や地域社会など、自分の周りに子どもがいることをどう思いますか。(3つまで)

自分の周りにいる子どもへの意識について聞いたところ、「地域や家庭が明るくなる」が82.0%で最も多く、続いて「地域や家庭の結びつきが強まる」が50.0%、「子どもを通じて交流が広がる」が48.2%となっている。

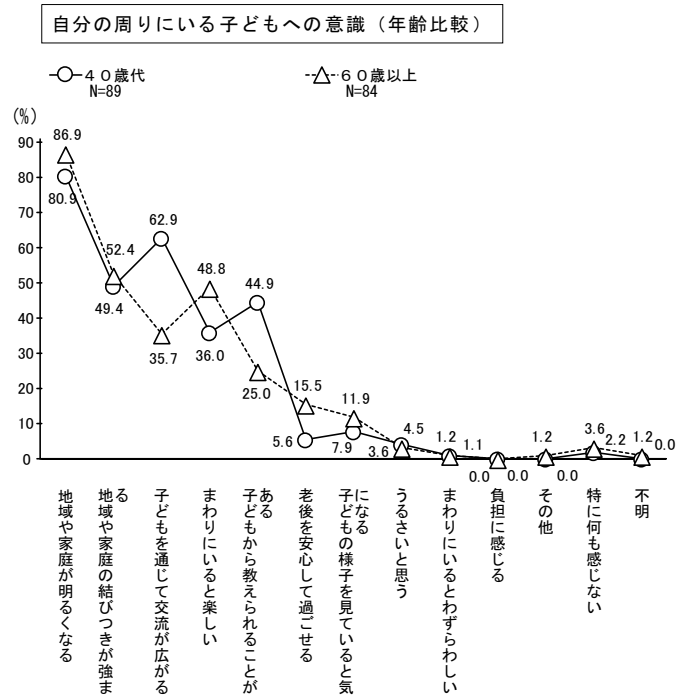


性別で見ると、いずれも「地域や家庭が明るくなる」が最も多く、「子どもを通じて交流が広がる」「子どもから教えられることがある」については女性の方が多くなっている。





年齢比較を行うと、いずれも「地域や家庭が明るくなる」が最も多く、「40歳代」については「子どもを通じて交流が広がる」、「60歳以上」については「まわりにいると楽しい」が多くなっている。



居住地区別に見てみると、いずれの地区でも「地域や家庭が明るくなる」「地域や家庭の結びつきが強まる」「子どもを通じて交流が広がる」が多くなっている。

自分の周りにいる子どもへの意識（居住地区別）

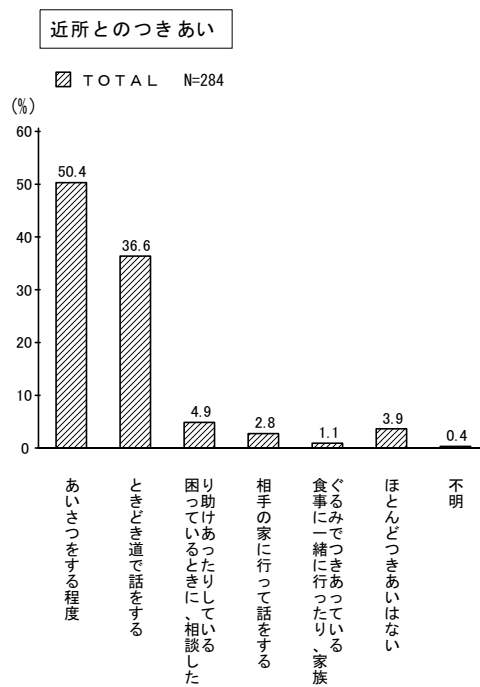
	TOTAL	地域や家庭が明るくなる	地域や家庭の結びつきが強まる	子どもを通じて交流が広がる	まわりにいると楽しい	ある子どもから教えられることがある	老後を安心して過ごせる	子どもの様子を見てみると気になる	うるさいと思う	まわりにいるとわずらわしい	負担に感じる	その他	特に何も感じない	不明
TOTAL	284	82.0	50.0	48.2	38.0	33.5	10.2	10.2	3.5	1.4	0.0	0.4	2.5	0.7
練馬	69	79.7	43.5	53.6	44.9	24.6	8.7	11.6	2.9	1.4	0.0	0.0	1.4	0.0
光が丘	87	86.2	49.4	48.3	40.2	39.1	9.2	13.8	2.3	0.0	0.0	1.1	1.1	1.1
石神井	77	80.5	58.4	45.5	33.8	27.3	13.0	11.7	5.2	1.3	0.0	0.0	1.3	1.3
大泉	50	82.0	48.0	46.0	32.0	46.0	10.0	0.0	4.0	4.0	0.0	0.0	6.0	0.0

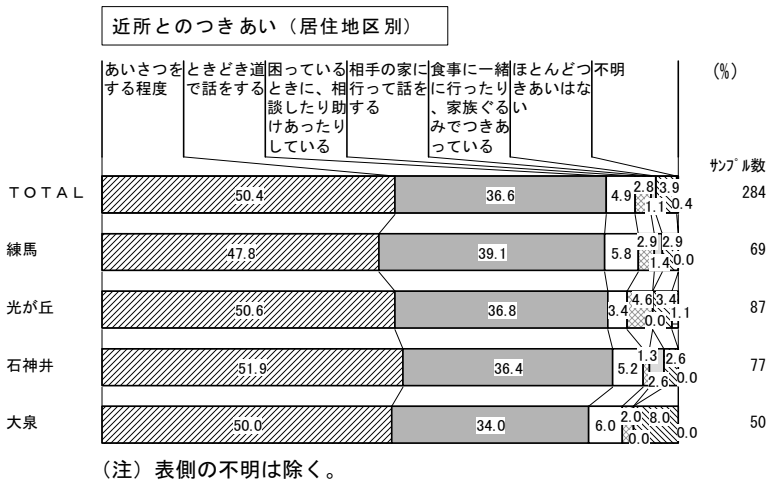
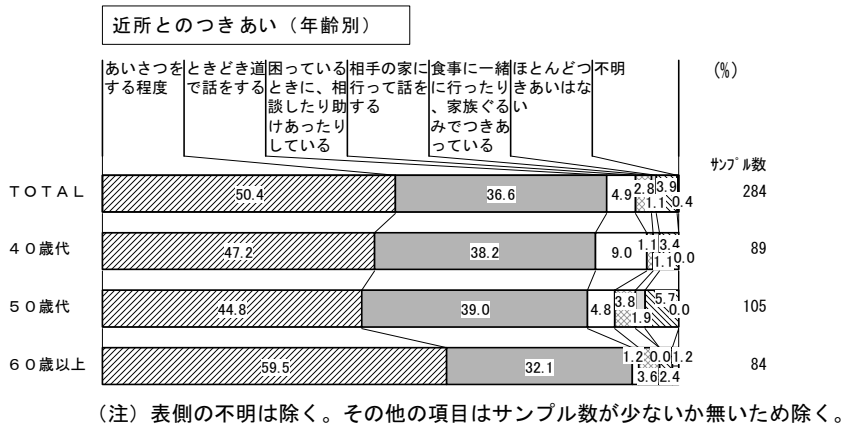
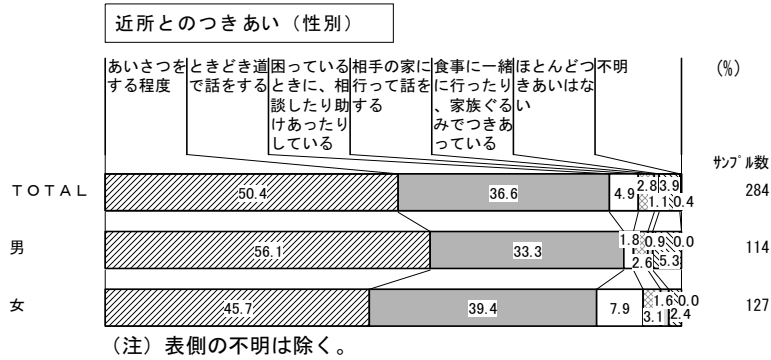
(注) 網掛けは50%以上。表側の不明は除く。

**問16 あなたの近所とのつきあいはどうですか。**

近所との付き合いについて聞いたところ、「あいさつをする程度」が50.4%、「ときどき道で話をする」が36.6%となっている。

性別、年齢別、居住地区別で見ると、いずれも「あいさつをする程度」や「ときどき道で話をする」が多くなっている。





**問17** あなたは、よその子どものいたずらやいじめなどに対して、注意をしますか。

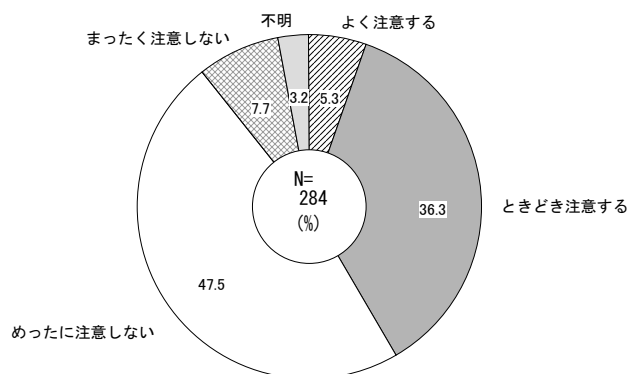
よその子どもへの注意の有無については、「めったに注意しない」が47.5%で、「ときどき注意する」が36.3%となっている。

性別で見ると、女性は「よく注意する」が7.1%、「ときどき注意する」が37.8%で合計すると44.9%が注意している。

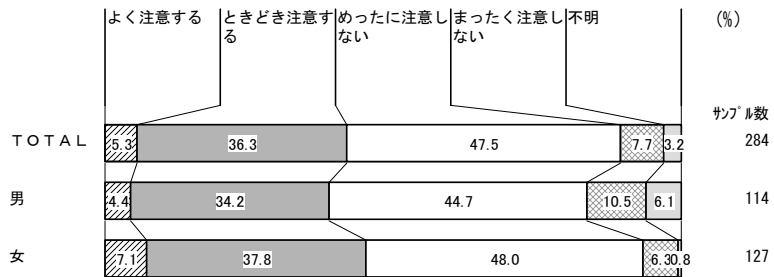
年齢別で見ると、「40歳代」の「よく注意する」が7.9%となっているが、「50歳代」になると「まったく注意しない」が12.4%となっている。

居住地区別で見ると、いずれの地区でも「ときどき注意する」「めったに注意しない」が多いが、「光が丘」地区では「ときどき注意する」がやや多くなっている。

よその子どもへの注意

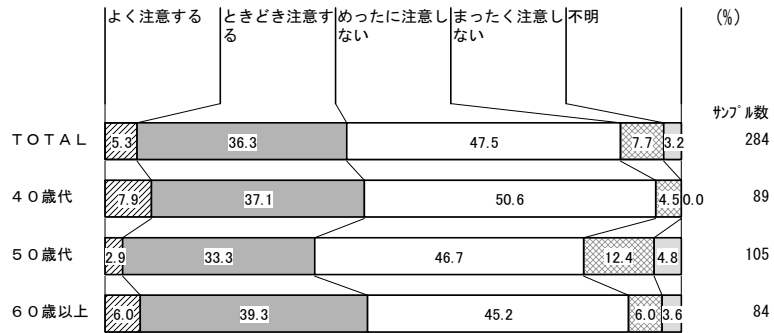


よその子どもへの注意（性別）



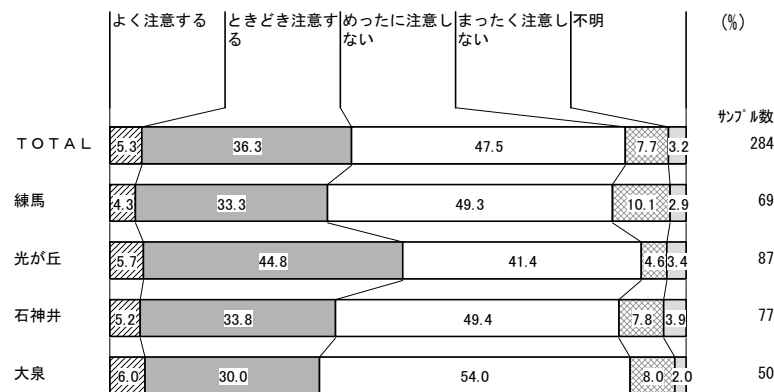
(注) 表側の不明は除く。

よその子どもへの注意（年齢別）



(注) 表側の不明は除く。その他の項目はサンプル数が少ないか無いため除く。

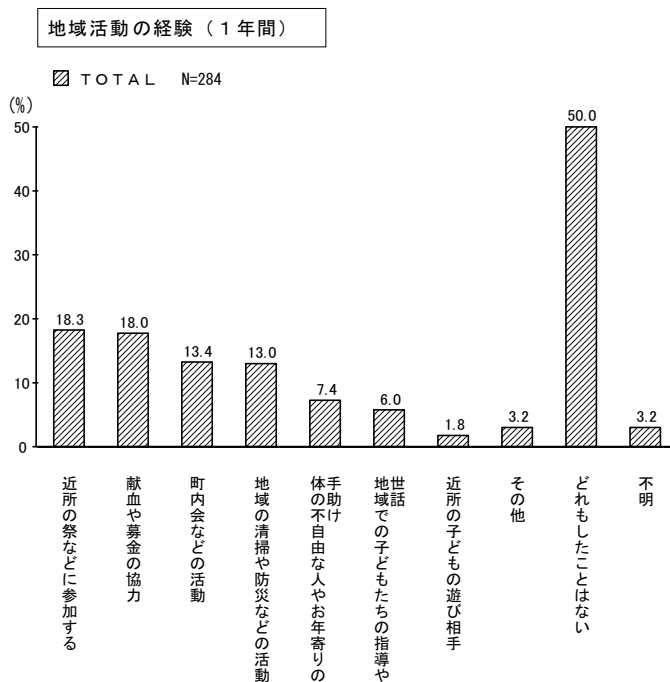
よその子どもへの注意（居住地区別）



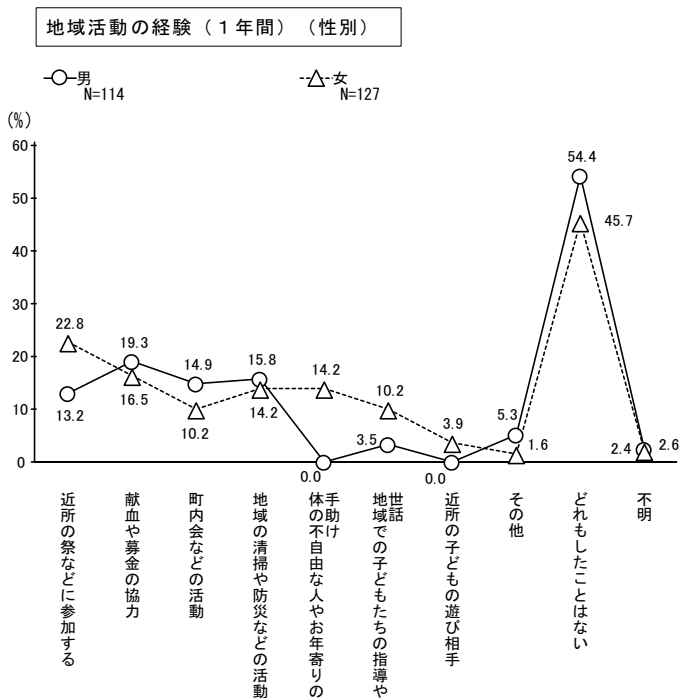
(注) 表側の不明は除く。

**問18** あなたは、この1年間で次のような地域活動をしたことがありますか。(複数回答)

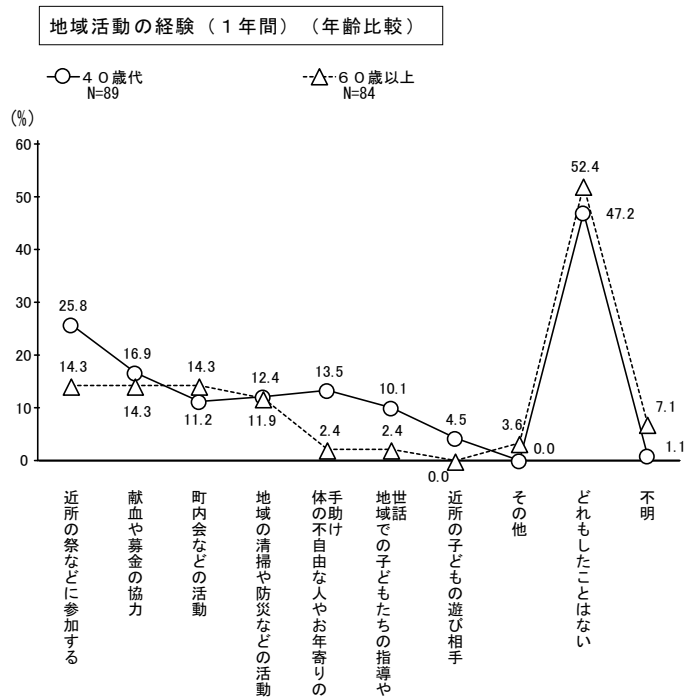
1年間で地域活動の経験について見てみると、「どれもしたことはない」が50.0%で最も多く、経験があるものについては、「近所の祭りなどに参加する」が18.3%、「献血や募金の協力」が18.0%、「町内会などの活動」が13.4%、「地域の清掃や防災などの活動」が13.0%、「体の不自由な人やお年寄りの手助け」が7.4%、「地域での子どもたちの指導や世話」が6.0%、「近所の子どもの遊び相手」が1.8%、「その他」が3.2%となっている。



性別で見ると、いずれも「どれもしたことはない」が圧倒的に多く、女性については「近所の祭りなどに参加する」も多くなっている。



年齢比較を行うと、いずれも「どれもしたことはない」が多いが、「40歳代」については「近所の祭りなどに参加する」が多い。



居住地区別に見てみると、いずれの地区でも「どれもしたことはない」が多いが、「練馬」地区では「献血や募金の協力」、「大泉」地区では「近所の祭りなどに参加する」が他の地区と比べてやや多くなっている。

地域活動の経験（1年間）（居住地区別）

	TOTAL	近所の祭りなどに参加する	献血や募金の協力	町内会などの活動	地域の清掃や防災などの活動	体の不自由な人やお年寄りの手助け	地域の指導や世話	近所の子どもの遊び相手	その他	どれもしたことはない	不明
TOTAL	284	18.3	18.0	13.4	13.0	7.4	6.0	1.8	3.2	50.0	3.2
練馬	69	18.8	24.6	13.0	8.7	5.8	4.3	2.9	5.8	52.2	1.4
光が丘	87	16.1	17.2	17.2	16.1	4.6	6.9	2.3	2.3	52.9	2.3
石神井	77	19.5	16.9	11.7	14.3	11.7	6.5	0.0	1.3	46.8	2.6
大泉	50	20.0	12.0	10.0	12.0	8.0	6.0	2.0	4.0	46.0	8.0

（注）網掛けは20%以上。表側の不明は除く。

問19 あなたは、ボランティア活動をしたことがありますか。

問20 あなたが参加したいと思うボランティア活動は何ですか。(複数回答)

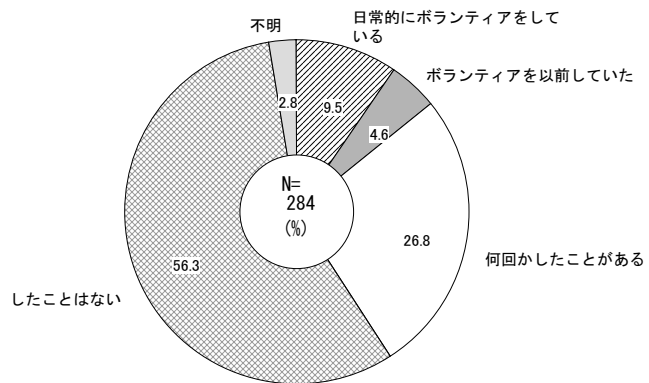
ボランティア経験について聞いたところ、「したことはない」は56.3%、「何回かしたことがある」は26.8%となっている。

性別で見ると、男性は「したことはない」が6割を超えているが、女性は「何回かしたことがある」が34.6%となっている。

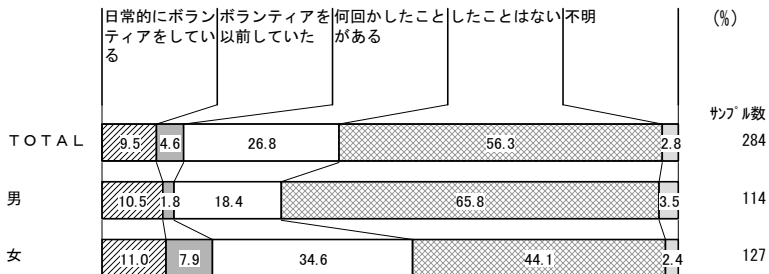
年齢別で見ると、いずれの年代も「したことはない」が最も多いが、「40歳代」については「何回かしたことがある」が4割弱を占めている。

居住地区別で見ると、いずれの地区でも「したことはない」が多いが、「練馬」地区では「日常的にボランティアをしている」、「石神井」地区では「何回かしたことがある」がやや多くなっている。

ボランティア経験

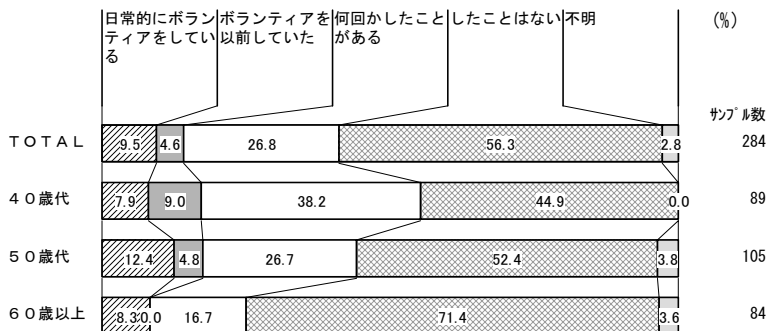


ボランティア経験 (性別)



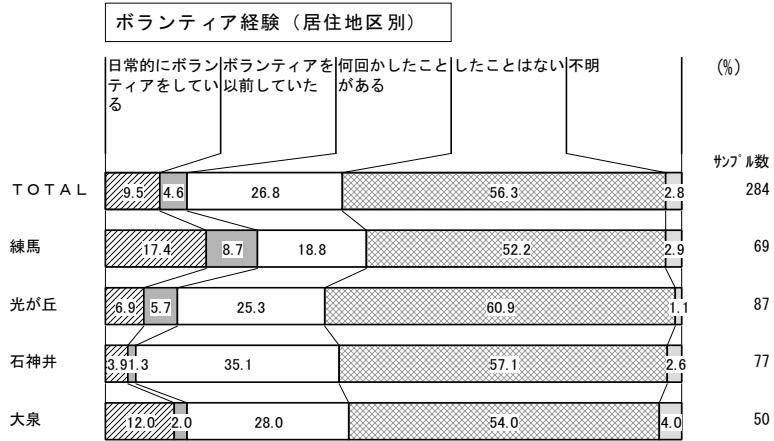
(注) 表側の不明は除く。

ボランティア経験 (年齢別)



(注) 表側の不明は除く。その他の項目はサンプル数が少ないか無いため除く。



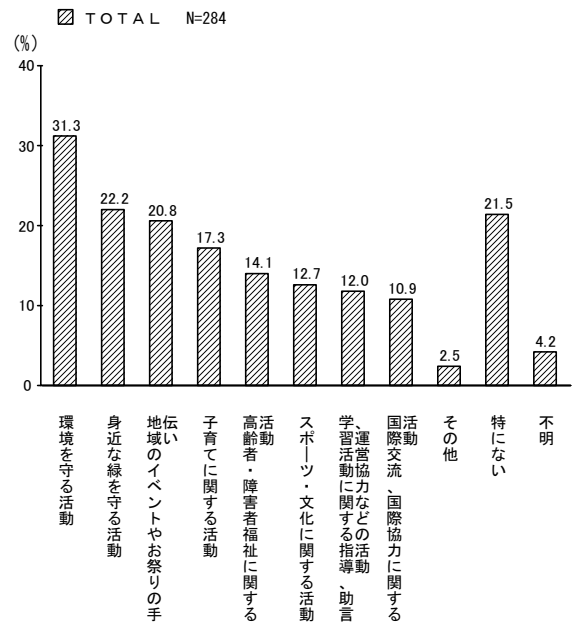


（注）表側の不明は除く。

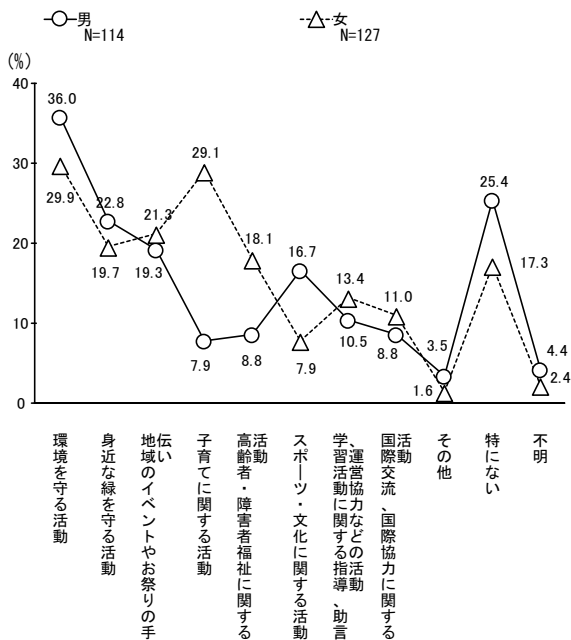
そこで参加したいボランティア活動について聞いたところ、「環境を守る活動」が31.3%で最も多く、続いて「身近な緑を守る活動」が22.2%、「地域のイベントやお祭りの手伝い」が20.8%となっている。

性別で見ると、男性は「環境を守る活動」や「身近な緑を守る活動」、女性は「環境を守る活動」「子育てに関する活動」が多くなっている。

参加したいボランティア活動

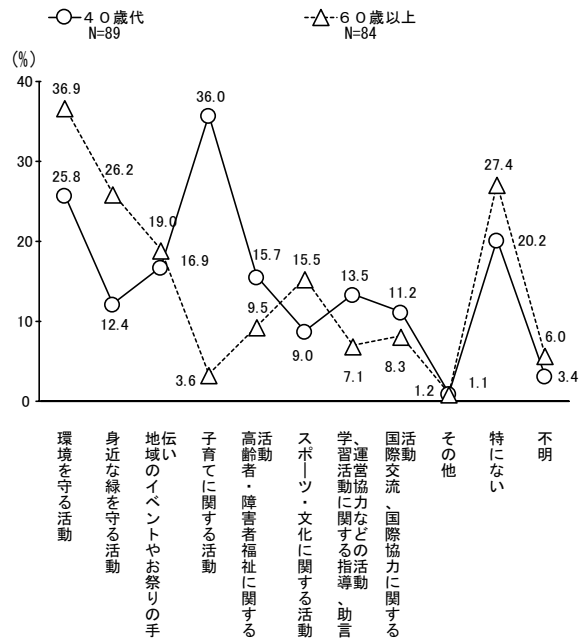


参加したいボランティア活動（性別）



年齢比較を行うと、「60歳以上」は「環境を守る活動」「身近な緑を守る活動」が多いが、「40歳代」については「子育てに関する活動」「環境を守る活動」が多くなっている。

参加したいボランティア活動（年齢比較）



居住地区別に見てみると、いずれの地区でも「環境を守る活動」や「身近な緑を守る活動」「地域のイベントやお祭りの手伝い」が多いが、「大泉」地区では「高齢者・障害者福祉に関する活動」が他の地区と比べて多くなっている。

参加したいボランティア活動（居住地区別）

	TOTAL	環境を守る活動	身近な緑を守る活動	地域のイベントやお祭りの手伝い	子育てに関する活動	高齢者・障害者福祉に関する活動	スポーツ・文化に関する活動	学習活動に関する指導、助言	国際交流、国際協力に関する活動	その他	特になし	不明
TOTAL	284	31.3	22.2	20.8	17.3	14.1	12.7	12.0	10.9	2.5	21.5	4.2
練馬	69	27.5	29.0	24.6	17.4	13.0	17.4	21.7	18.8	1.4	18.8	5.8
光が丘	87	29.9	21.8	18.4	19.5	9.2	10.3	10.3	10.3	4.6	21.8	2.3
石神井	77	33.8	18.2	22.1	16.9	11.7	15.6	7.8	5.2	2.6	23.4	7.8
大泉	50	34.0	18.0	18.0	14.0	26.0	6.0	8.0	10.0	0.0	22.0	0.0

(注) 網掛けは20%以上。表側の不明は除く。

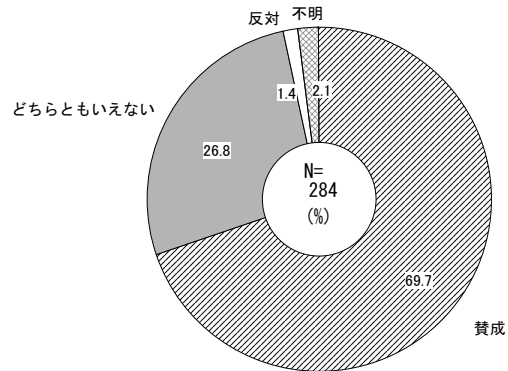
**問21** あなたは、子どもの安全を確保するために、地域のボランティアパワーによって実施していく学校応援団の活動についてどうお考えになりますか。  
**問21(1)** 問19で「賛成」と答えた人へ、ボランティアとして活動することができますか。

子どもの安全を確保するために、地域のボランティアパワーによって実施していく学校応援団の活動について聞いたところ、「賛成」は69.7%、「どちらともいえない」は26.8%であった。

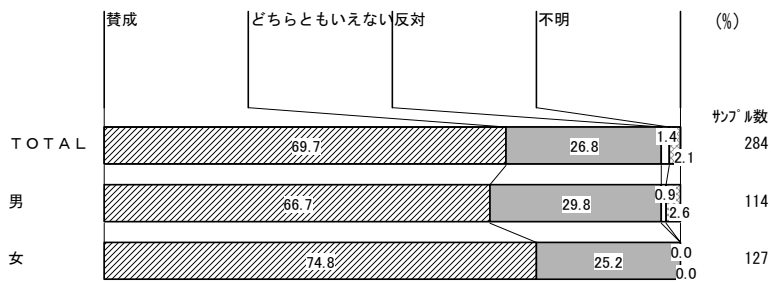
性別で見ると、男女共に「賛成」が7割前後を占めている。

居住地区別で見ると、いずれの地区でも「賛成」が多くなっている。

学校応援団の活動への評価

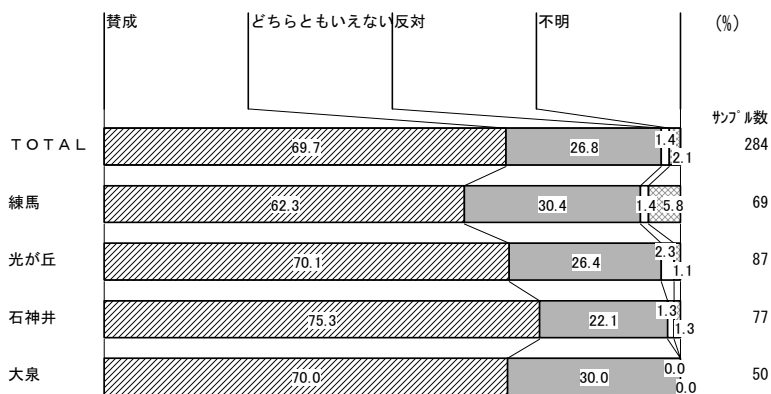


学校応援団の活動への評価 (性別)



(注) 表側の不明は除く。

学校応援団の活動への評価 (居住地区別)



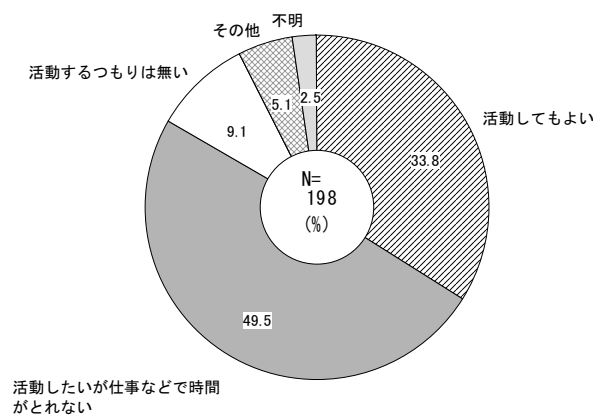
(注) 表側の不明は除く。

『学校応援団の活動について』について「賛成」と回答した人に、ボランティアとしての活動可能性について聞いたところ、「活動したいが、仕事などで時間がとれない」が49.5%で最も多く、続いて「活動してもよい」が33.8%となっている。

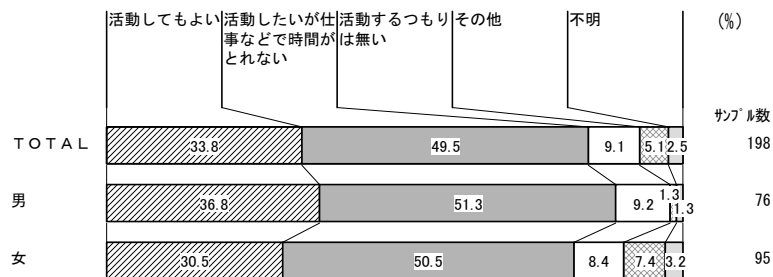
性別で見ると、いずれも「活動したいが、仕事などで時間がとれない」が最も多いが、「活動してもよい」も3割を超えている。

居住地区別に見ると、「練馬」地区などでは「活動したいが、仕事などで時間がとれない」が最も多く、「大泉」地区では「活動してもよい」が最も多くなっている

ボランティアとしての活動可能性

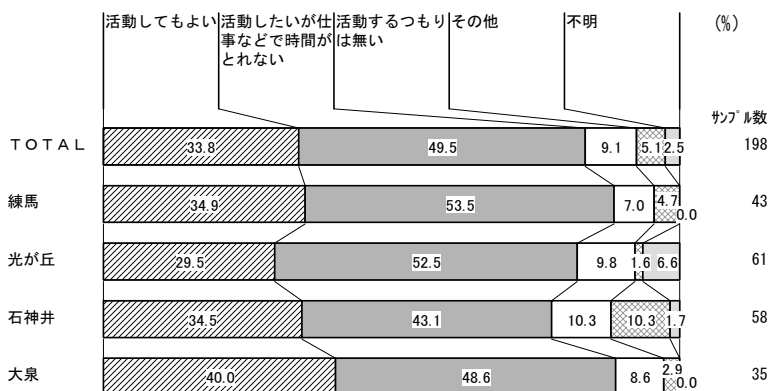


ボランティアとしての活動可能性（性別）



(注) 表側の不明は除く。

ボランティアとしての活動可能性（居住地区別）



(注) 表側の不明は除く。

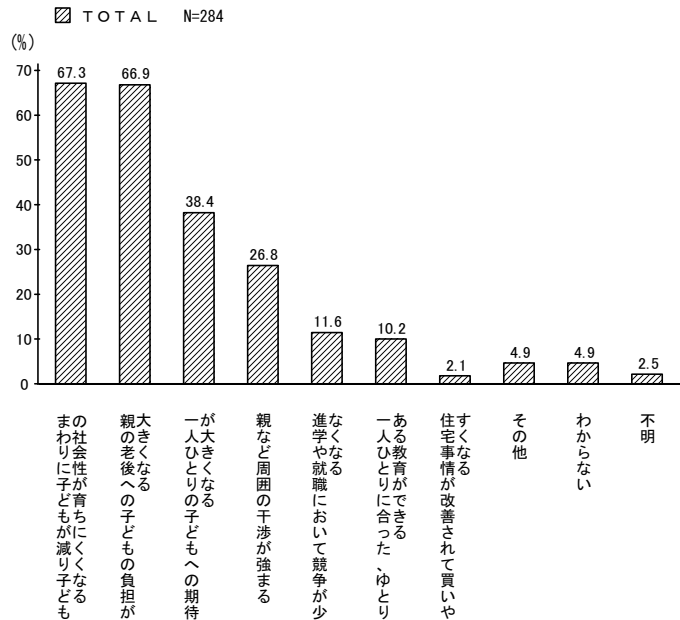
## (6) 少子社会に対する考え方について

**問22** あなたは、少子社会（＝出生率が低下し、子どもの数が減ることにより、将来的には人口規模の縮小が考えられる社会）が、個人の生活にどのような影響を与えますか。（3つまで）

**問23** あなたは、少子社会が国や地域社会にはどのような影響を与えますか。（3つまで）

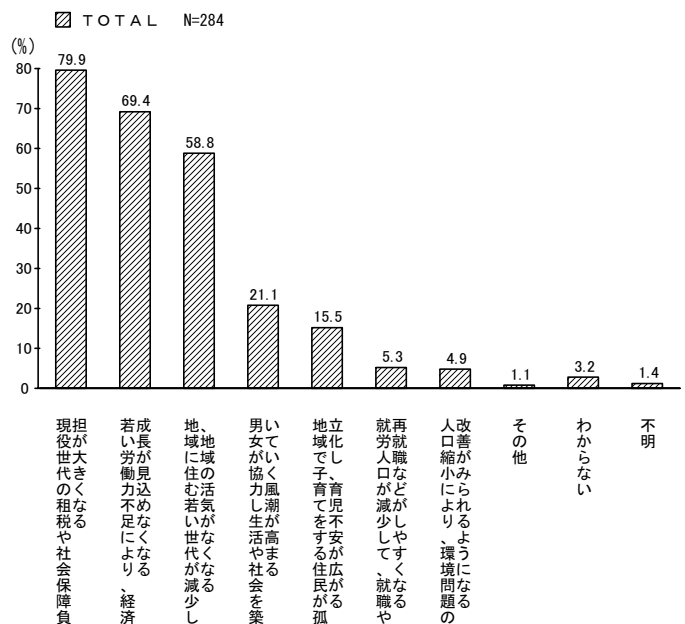
少子化の個人生活への影響については、「まわりに子どもが減り子どもの社会性が育ちにくくなる」が67.3%で最も多く、続いて「親の老後への子どもの負担が大きくなる」が66.9%となっている

少子社会が個人生活に及ぼす影響



少子化の国、地域社会への影響については、「現役世代の租税や社会保障負担が大きくなる」が79.9%で最も多く、続いて「若い労働力不足により、経済成長が見込めなくなる」が69.4%となっている。

少子社会が国や地域社会に及ぼす影響

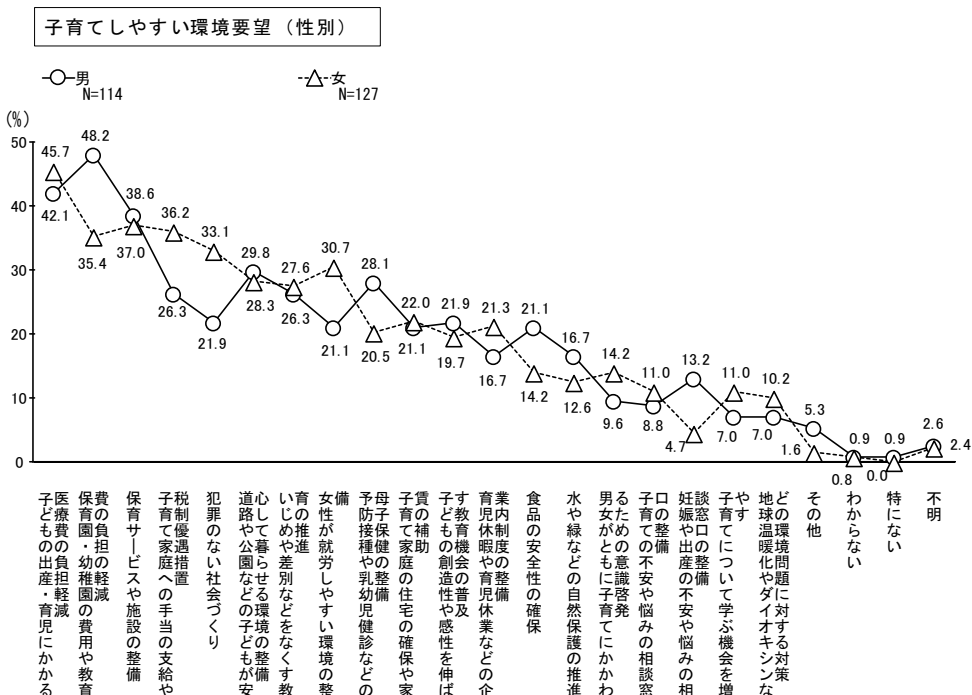
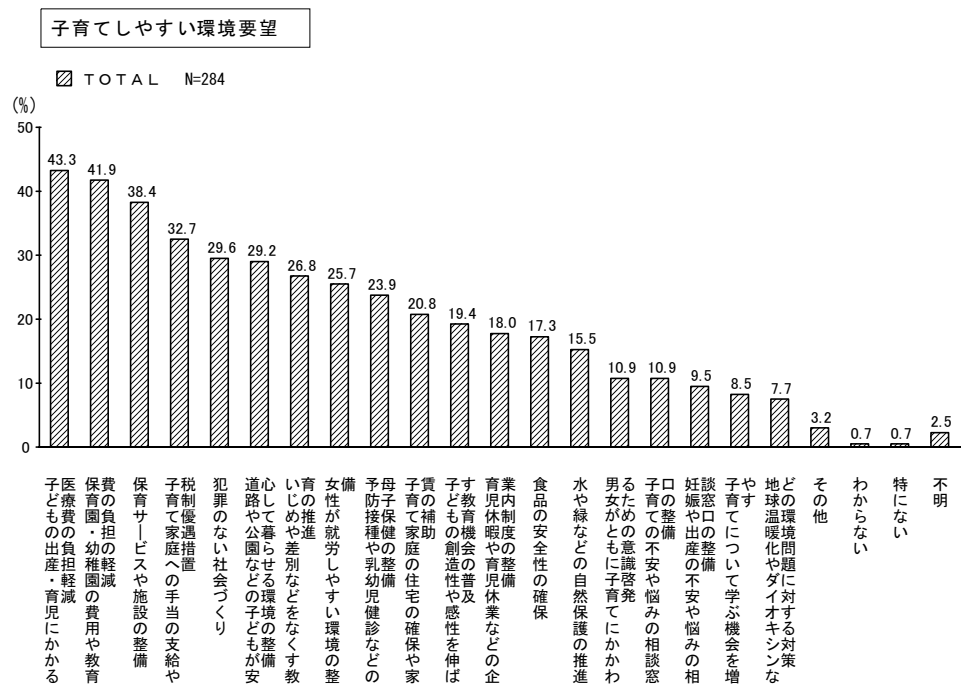


## (7) 行政サービス要望について

**問24** あなたは子育てしやすい環境を整備するために、区はどうしていくのがよいと思いますか。(5つまで)

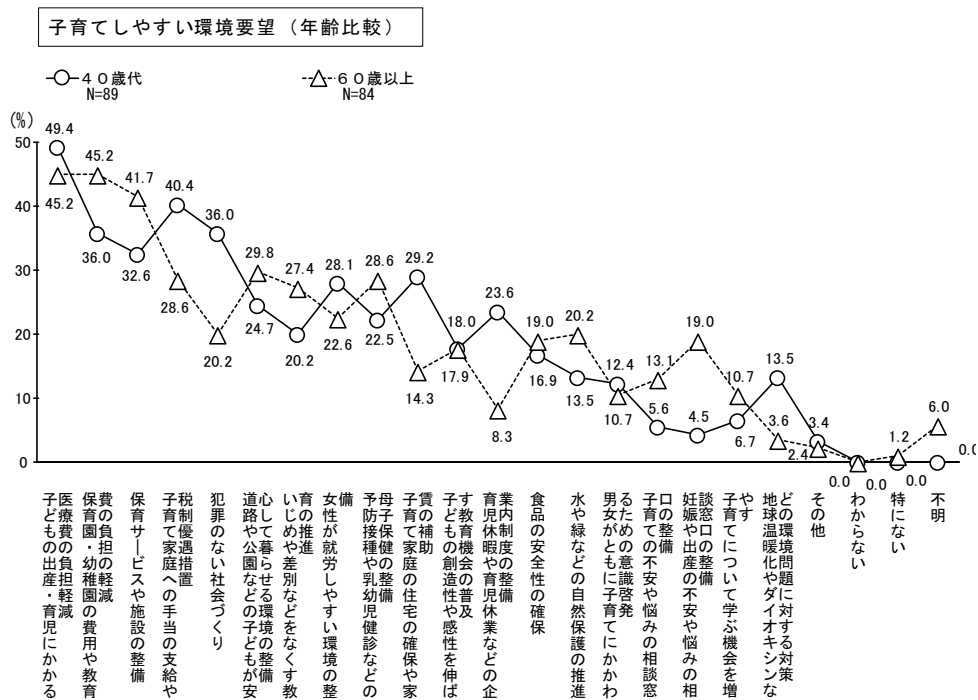
子育てしやすい環境を整備するために必要なことを聞いたところ、「子どもの出産・育児にかかる医療費の負担軽減」が43.3%で最も多く、続いて「保育園・幼稚園の費用や教育費の負担の軽減」が41.9%、「保育サービスや施設の整備」が38.4%となっている。

性別で見ると、男性は「保育園・幼稚園の費用や教育費の負担の軽減」などの費用負担項目が多く、女性は「子育て家庭への手当ての支給や税制優遇措置」「女性が就労しやすい環境の整備」が多くなっている。



年齢比較を行うと、「60歳以上」は「保育園・幼稚園の費用や教育費の負担の軽減」「保育サービスや施設の整備」が多く、「40歳代」は「子どもの出産・育児にかかる医療費の負担軽減」「子育て家庭への手当での支給や税制優遇措置」が多くなっている。

居住地区別で見ると、いずれの地区でも「保育園・幼稚園の費用や教育費の負担の軽減」「子どもの出産・育児にかかる医療費の負担軽減」が多く、「大泉」地区では「いじめや差別などなくす教育の推進」が、他の地区と比べて多くなっている。



子育てしやすい環境要望（居住地区別）

	TOTAL	子どもが出産・育児にかかる医療費の負担軽減	保育園・幼稚園の費用や教育費の負担軽減	保育サービスや施設の整備	子育て家庭への手当の支給や税制優遇措置	犯罪のない社会づくり	道路や公園などの子どもが安心して暮らせる環境の整備	いじめや差別などなくす教育の推進	女性が就労しやすい環境の整備	母子保健の整備	予防接種や乳幼児健診などの子育て家庭の住宅の確保や家賃の補助	子どもの創造性や感性を伸ばす教育機会の普及	業内制度の整備	育児休暇や育児休業などの企業内制度の整備	食品の安全性の確保	水や緑などの自然保護の推進	男女がともに子育てにかかわるための意識啓発	口を整備	子育ての不安や悩みの相談窓の整備	妊娠や出産の不安や悩みの相談窓の整備	談話口を整備	子育てについて学ぶ機会を増やす	地球温暖化やダイオキシンなどの環境問題に対する対策	その他	わからない	特にな	不明
TOTAL	284	43.3	41.9	38.4	32.7	29.6	29.2	26.8	25.7	23.9	20.8	19.4	18.0	17.3	15.5	10.9	10.9	10.9	9.5	8.5	7.7	7.7	3.2	0.7	0.7	2.5	
練馬	69	46.4	39.1	31.9	33.3	31.9	29.0	21.7	29.0	17.4	17.4	18.8	21.7	15.9	15.9	8.7	8.7	11.6	10.1	7.2	5.8	1.4	0.0	2.9			
光が丘	87	46.0	44.8	49.4	32.2	33.3	24.1	21.8	27.6	25.3	20.7	21.8	19.5	12.6	16.1	9.2	14.9	11.5	4.6	8.0	1.1	0.0	0.0	1.1			
石神井	77	36.4	41.6	36.4	33.8	22.1	39.0	26.0	24.7	27.3	18.2	19.5	22.1	16.9	13.0	11.7	9.1	7.8	11.7	3.9	2.6	1.3	2.6	3.9			
大泉	50	46.0	42.0	32.0	32.0	32.0	22.0	42.0	20.0	26.0	30.0	16.0	4.0	26.0	16.0	16.0	16.0	10.0	6.0	8.0	14.0	4.0	0.0	0.0	2.0		

(注) 網掛けは30%以上。表側の不明は除く。